

5. 医学系研究科

I	医学系研究科の教育目的と特徴	・ ・ ・ ・ ・	5 - 2
II	「教育の水準」の分析・判定	・ ・ ・ ・ ・	5 - 4
	分析項目 I 教育活動の状況	・ ・ ・ ・ ・	5 - 4
	分析項目 II 教育成果の状況	・ ・ ・ ・ ・	5 - 19
III	「質の向上度」の分析	・ ・ ・ ・ ・	5 - 32

I 医学系研究科の教育目的と特徴

(医学系研究科の教育目的)

1. 医学系研究科は、生命現象のしくみの解明、疾病の克服及び健康の増進に寄与する最先端研究を推進するとともに、医学系領域の各分野において卓越した学識と高度な独創的研究能力を有する国際的リーダーを養成することを目的として教育を行う。
2. これは、東京大学の中期目標における基本目標であり、本学の最大の使命ともいえる、「教育の質と研究の質のさらなる高度化を図り、そのことを通して、国内外の多様な分野において指導的役割を果たす人材を育成すること」の一翼を担うものであり、「大学院課程を通じ、未踏の領域に果敢に挑戦する開拓者精神に富み国際的に活躍できる研究者、高度専門職業人等、社会の先頭に立つ人材を育成する」という、教育内容及び教育の成果等に関する目標にかなうものである。
3. これらの目的を実現するために、医学系研究科においては明日の医学、医療を切り開くパイオニアを数多く輩出する教育を施す。具体的には以下の分野についての教育を行う。
 - 医学の推進：生命科学の核としての医学及び最先端かつ全人的医療の実践を推進する能力
 - 医学における先端的・独創的活動：基礎医学、臨床医学、社会医学、健康科学、看護学、国際保健学など各分野
 - 医学における国際的リーダーの養成：最先端研究を推進する基礎医学の教育、臨床医学・健康科学と連携した社会医学領域の教育、高度専門職としての実践能力を高める教育

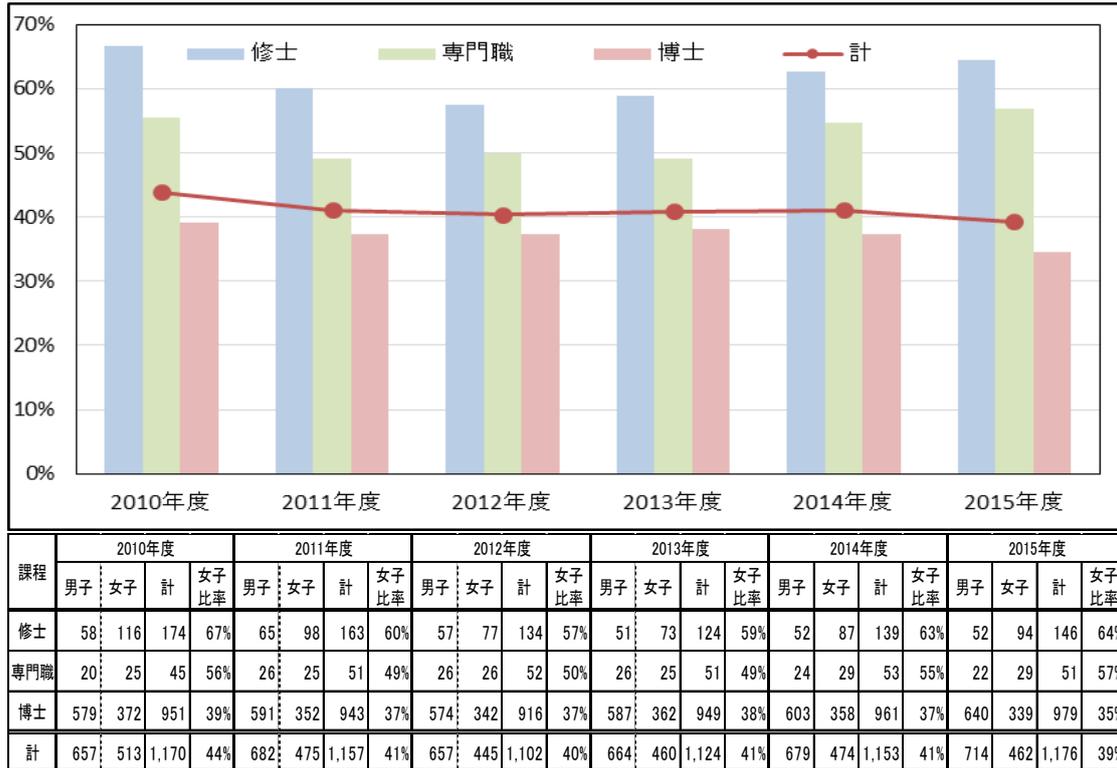
(医学系研究科の特徴)

4. 医学系研究科における大学院教育は、医学博士課程、博士後期課程ならびに修士課程の各専攻が担当し、それぞれが特徴的な学問分野の発展を推進するための教育・研究を担っている。

また、2007 年度に専門職学位課程（専門職大学院）を設置し、広範な人々の健康の維持、増進、回復及び生活の質（quality of life）の改善において、指導的な役割を果たす公衆衛生分野の高度専門職業人を養成することを目的として教育を行っている。
5. 一方、工学系研究科との連携組織として、疾患生命工学センターが設置されており、先端的・学際的な教育・研究を実践している。さらに、医学系研究科附属医学教育国際研究センターでは、国内外の医学教育の発展と向上に取り組んでいる。
6. 本研究科の大学院学生における女子学生比率は高く、近年は概ね 40%で推移している（資料 5-1）。

また、社会人入学者数は、大学院全体で概ね 200 名に上り、本研究科の多様な学生構成を特徴づけるものとなっている（資料 5-2）。

資料5-1：大学院学生における女子学生比率（各年度5月1日現在）



資料5-2：社会人入学状況（各年度5月1日現在）



[想定する関係者とその期待]

高度な医学の修得を目指す学生が第一の関係者であり、基礎医学や臨床医学の研究能力の涵養を図り、優れた基礎医学、臨床医学の研究者あるいは研究マインドを持った臨床医となることを期待している。また、医学に関連する多様な社会領域が第二の関係者であり、専門的知識や研究能力を有する人材の供給が期待されている。

また、専門職大学院では、公衆衛生分野の高度専門職業人として活躍したいと希望する保健医療系の実務者及び学生から既存の修士課程では修得できない広範かつ最先端の教育を期待されており、行政機関や企業、国内外の保健系シンクタンク及び医療系教育機関等からは、健康増進活動において指導的役割を發揮できる専門家や政策評価やプロジェクト立案を行える専門性の高いアナリストなどの養成が期待されている。

II 「教育の水準」の分析・判定

分析項目 I 教育活動の状況

観点 教育実施体制

(観点に係る状況)

○基本組織の編成

本研究科の13専攻の教育研究上の目的を資料5-3に示す。

資料5-3：専攻ごとの「教育研究上の目的」

専攻名	教育研究上の目的
分子細胞生物学	細胞生物学、分子生物学、生化学および発生工学、遺伝学の領域で、最先端の研究を推進し医学・生命科学の根幹の発展に貢献すると共に、高度な学識と研究能力を有し国際的リーダーとして活躍できる医学研究者を養成することを目的とする。
機能生物学	生命現象の解明と機能発現のしくみを明らかにし、疾病の克服に寄与する最先端研究を推進するとともに、機能生物学分野において卓越した学識と高度な独創的研究能力を有する国際的リーダーを養成することを目的とする。
病因・病理学	疾病の成立のメカニズムを明らかにしその対策を確立すると共に、当該分野の人材育成を目的とする。具体的には各講座が連携しながら、研究・教育の統合的な発展を図る。
生体物理医学	医学と工学および物理学の境界領域として発展を続ける生体医工学、生物物理学、放射線医学に関する最先端研究を推進することで、生命現象を成立させている未知の原理を探索するとともに新しい医療技術の開発を行って、この分野における独創性の高い研究を遂行できる国際的リーダーを養成することを目的としている。
脳神経医学	脳神経系の機能の解明、疾病の克服および健康の増進に寄与する最先端研究を推進するとともに、医学系領域の各分野において卓越した学識と高度な独創的研究能力を有する国際的リーダーを養成することを目的とする。
社会医学	人間集団を対象として、環境、社会および情報等の観点から、疾病の原因究明、疾病の予防および健康の増進に寄与する最先端研究を推進するとともに、社会医学を構成する諸分野の中核を担う人材を養成することを目的とする。
内科学	内科疾患の病態生理を、分子、細胞、個体、さらに集団のレベルで理解し、疾患のメカニズムを明らかにすることを目指している。同時に、疾患を生命現象の破綻としてとらえ、生命科学の進歩にも貢献する。さらにこれらの成果を新しい診断や治療法の開発に展開する研究者も育成する。これらの活動により内科学領域において卓越した学識と高度な診療技術、および独創的研究能力を有する国際的指導者を養成する。
生殖・発達・加齢医学	生殖内分泌学、生殖腫瘍学、周産期医学、分子細胞生殖医学、小児科学、発達発育学、小児外科学、小児腫瘍学、老年病学、老化制御学の10分野から成り、各専攻分野において自立した研究者を養成することを目的としており、特に、ヒトの疾病の病因・病態の解明、治療法の開発を、生殖、発達、加齢という時間軸の視点から行うことを共通の基盤としている。
外科学	臨床系の外科を中心に、臓器病態外科学、感覚運動機能医学、生体管理医学までの16分野を包括する幅広い学問分野を守備範囲とする。各分野により研究内容は異なるが、各分野における最先端研究を推進するとともに、新しい医療技術の開発を行い、独創性の高い研究を遂行できる国際的リーダーを養成することを目的とする。
健康科学・看護学	看護学系講座(予防看護学講座、臨床看護学講座)と健康科学大講座とからなる。本専攻は、出生前から人生の最期に至るまで、ライフサイクルの各期に応じた発達支援・健康増進、疾病の予防と回復、支援環境整備に寄与する研究を推進する。同時に、これらの課題を研究し、改善していける教育・研究者ならびに高度専門職業人を育成することを目的とする。
国際保健学	国際保健政策学、国際地域保健学、人類遺伝学、発達医科学、人類生態学、生物医化学の6つの基幹分野に協力講座が加わって構成される。本専攻は、これら国際保健学の諸分野において高度な専門知識を有し、自立して最先端の国際的研究を遂行できる人材や国際機関等で保健政策をリードできる人材を育成する。
医科学	大学での学部・専攻を問わず、広く医学の基礎的分野の研究者・教育者の養成を行うことを目的とする。
公共健康医学	国民や地域住民、患者も含めた広範な人々の健康の維持、増進、回復及び生活の質(quality of life)の改善に寄与する最先端研究を推進するとともに、公衆衛生領域で指導的及び実践的役割を果たす高度専門職業人を養成する。

東京大学医学系研究科 分析項目 I

各課程とも、学生定員の充足率については、適正な状況にある（資料5-4）。

資料5-4：大学院学生定員充足状況

	2010年度			2011年度			2012年度			2013年度			2014年度			2015年度		
	入学定員	入学者数	充足率															
修士課程	66	83	1.26	66	64	0.97	66	57	0.86	66	60	0.91	66	70	1.06	66	66	1.00
健康科学・看護学専攻	25	25	1.00	25	16	0.64	25	14	0.56	25	19	0.76	25	27	1.08	25	19	0.76
国際保健学専攻	21	31	1.48	21	24	1.14	21	20	0.95	21	22	1.05	21	18	0.86	21	23	1.10
医科学専攻	20	27	1.35	20	24	1.20	20	23	1.15	20	19	0.95	20	25	1.25	20	24	1.20
博士(後期)課程	244	241	0.99	244	228	0.93	244	227	0.93	244	246	1.01	244	233	0.95	244	244	1.00
分子細胞生物学専攻	19	10	0.53	19	7	0.37	19	11	0.58	19	8	0.42	19	7	0.37	19	9	0.47
機能生物学専攻	14	7	0.50	14	4	0.29	14	7	0.50	14	7	0.50	14	5	0.36	14	8	0.57
病因・病理学専攻	33	25	0.76	33	28	0.85	33	25	0.76	33	33	1.00	33	18	0.55	33	21	0.64
生体物理医学専攻	17	6	0.35	17	7	0.41	17	15	0.88	17	15	0.88	17	8	0.47	17	12	0.71
脳神経医学専攻	21	22	1.05	21	25	1.19	21	23	1.10	21	17	0.81	21	22	1.05	21	19	0.90
社会医学専攻	14	12	0.86	14	13	0.93	14	12	0.86	14	11	0.79	14	12	0.86	14	13	0.93
内科学専攻	36	61	1.69	36	51	1.42	36	55	1.53	36	50	1.39	36	63	1.75	36	63	1.75
生殖・発達・加齢医学専攻	16	18	1.13	16	19	1.19	16	16	1.00	16	17	1.06	16	25	1.56	16	17	1.06
外科学専攻	40	42	1.05	40	53	1.33	40	35	0.88	40	56	1.40	40	52	1.30	40	56	1.40
健康科学・看護学専攻	25	19	0.76	25	7	0.28	25	14	0.56	25	18	0.72	25	14	0.56	25	16	0.64
国際保健学専攻	9	19	2.11	9	14	1.56	9	14	1.56	9	14	1.56	9	7	0.78	9	10	1.11
専門職学位課程	30	28	0.93	30	31	1.03	30	30	1.00	30	32	1.07	30	30	1.00	30	29	0.97
公共健康医学専攻	30	28	0.93	30	31	1.03	30	30	1.00	30	32	1.07	30	30	1.00	30	29	0.97

教育を担当する専攻ごとの教員数とその配置を資料5-5に示す。この他に学内の研究所、研究施設所属の教員と、各専攻における極めて多様な教育内容に対応するため、学外の非常勤講師を多数配置し、医学系研究科に求められる徹底した少人数教育や演習等の個別指導を実践している。

資料5-5：専任教員数（2015年5月1日現在）

課程	専攻名	教授	准教授	講師	助教	計
博士課程	分子細胞生物学	7	5	3	12	27
	機能生物学	4	0	4	7	15
	病因・病理学	15	6	2	17	40
	生体物理医学	3	6	8	3	20
	脳神経医学	7	7	1	10	25
	社会医学	1	2	5	5	13
	内科学	15	13	8	6	42
	生殖・発達・加齢医学	5	12	2	0	19
	外科学	18	24	6	1	49
修士	健康科学・看護学	4	3	4	16	27
	国際保健学	6	5	2	13	26
専門職	公共健康医学専攻	5	6	1	3	15
計		90	89	46	93	318

※医科学専攻（修士課程）の教員は、博士9専攻の教員と重複するため含めない

○教育内容、教育方法の改善に向けて取り組む体制

4つのグローバルCOE拠点(「生命シグナルを基盤とする統合生命学(2007～2011年度)」、「疾患のケミカルバイオロジー教育研究拠点(2008～2012年度)」、「次世代型生命・医療倫理の教育研究拠点創成(2008～2012年度)」、「学融合に基づく医療システムイノベーション(2008～2012年度)」を運営している。

また、2011年度に開始された、博士課程教育リーディングプログラム「ライフイノベーションを先導するリーダー養成プログラム(GPLLI)」に本研究科が中心となって主体的に取り組むとともに(資料5-6)、2013年度からは、オールラウンド型の博士課程教育リーディングプログラムである「社会構想マネジメントを先導するグローバルリーダー養成プログラム」にも参画している。

資料5-6 : GPLLI の概要

東京大学ライフイノベーション・リーディング大学院

GPLLI とは

本プログラムは平成 23 年度よりスタートした文部科学省「博士課程教育リーディングプログラム」事業によるものです。本事業は、「優秀な学生を俯瞰力と独創力を備えて広く産学官にわたりグローバルに活躍するリーダーへと導くため、産学官の枠を越えて博士前期・後期一貫した世界に通用する質の保証された学位プログラムを構築・展開し、大学院教育を改革すること」を目的に立ち上げられました。

東京大学「ライフイノベーションを先導するリーダー養成プログラム」(Graduate Program for Leaders in Life Innovation (GPLLI))は、ライフイノベーションに関わる世界的にみても優れた教育・研究資源を統合し、基礎から臨床、医薬品から医療機器まで、ライフイノベーションを支える多様かつ複雑な局面においてリーダーシップを発揮しうる人材を育成します。先端医療開発システムは複雑系であり、リーダーには多分野の知識と人をまとめ上げるための複合的能力「リーダー力」(自らの専門の確固たる軸足、俯瞰的視野、コミュニケーション能力、見識)が要求されます。本プログラムでは、グローバルな先端医療開発システムの構築に向けて医・工・薬・理学系が協働して、部局横断型の学位プログラムを立ち上げ、上記の要求特性を満たす国際的リーダー候補人材を育成して参ります。

研究室の成果を医療現場へ	理系のリーダーを養成する	講義と現場、リーダーから学ぶ
世界最先端の日本の医療技術を医薬品・医療機器や再生医療などの形で実用化することは、国際競争力のある産業を育て、しかも国民の医療・健康水準の向上に貢献することが期待されます。そのようなライフイノベーションを実現するためには、礎となる生命科学分野での技術革新が不可欠です。ただ、大学を起点にして最先端の実用化を先導するのは簡単ではありません。専門分野の垣根を超えて、優れた「知」を統合する必要がある上、その研究開発には患者さんや医療現場、そして産業界の協力も必要となります。	関係者の協力を得てライフイノベーションを実現するには強い推進力を持ったリーダーの存在が不可欠です。しかも軸足となる高度な専門性を持った上で、社会・市場のニーズを把握し、異分野の専門家の協力を得ながら、その「知」をまとめ上げる優れたリーダーが必要と私たちは考えます。このような「理系のリーダー」の活躍の場は大学だけにとどまりません。産業界で医薬品・医療機器の実用化を先導する技術者・経営者になる人、患者さんのニーズを踏まえた研究・診療を行なう医師となる人、医療関連の政策や審査の国際的な方針をまとめる行政官や審査官になる人もいでしょう。	本プログラムでは、ライフイノベーションに関わる医学、工学、薬学、理学の4研究科が連携して新しいリーダー教育カリキュラムを構築しました。参加学生は分野横断的な最先端技術に関する講義を受けるとともに、インターンシップで実践力を培います。派遣先には病院を含む異分野の研究室、海外大学、医療機関、国内の企業、官公庁を予定しています。更にリーダーの「技」と「心」を学ぶため、スキル講義や第一線で活躍する産学官のリーダーを招聘した演習も行ないます。 昨今、大学で育成される理系人材と産業界・官界で求められる人材の間でのミスマッチが指摘されており、本プログラムで社会の需要を踏まえた教育を実践することで、卒業生のキャリアパスを拡大し、新たな大学院教育の体系を作り上げたいと考えています。

GPLLI では、複数指導教員体制などにより医学以外のディシプリンに対する視野を広げる教育や学生の海外派遣を実践するとともに、コース生には、修士課程2年生(医学博士課程は1年生)から月額8万円、博士課程1年生(医学博士課程は2年生)から月額18万円の奨励金が博士号取得時まで給付され、履修に専念できるよう経済支援を推進している(資料5-7)。

資料5-7 : GPLLI 経済支援実績

	2012年度	2013年度	2014年度	2015年度
支援学生数(人)	86	103	115	117
支援額(円)	127,640,000	166,620,000	189,860,000	190,720,000

東京大学医学系研究科 分析項目 I

海外の多くの学術機関と国際交流協定・覚書締結しており、第1期中期目標期間末の15校から2015年度には29校へと増加している（資料5-8、5-9）。

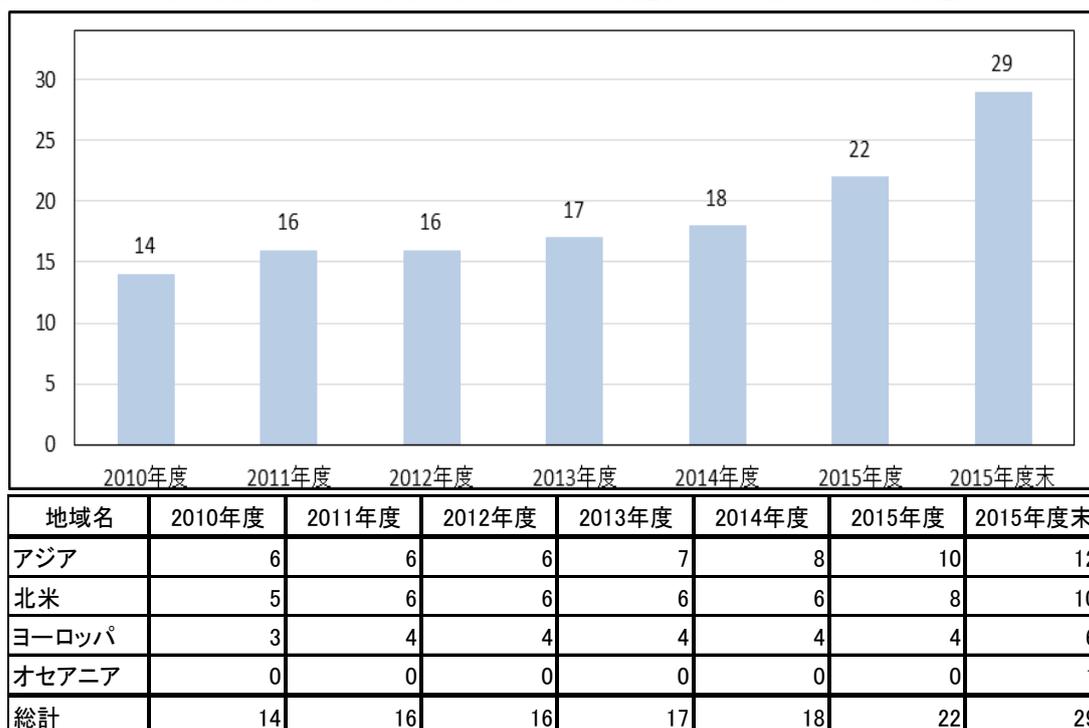
研究・教育の両面で非常にレベルが高い、海外の学術機関との協定締結がもたらす共同研究の活性化はもとより、教員・研究者、学生の交流により、最先端の教育方法を共有するなど、大学院教育の国際化が促進されている。

資料5-8：学術交流協定締結一覧（2015年度末現在）

地域	アジア	北米	ヨーロッパ	オセアニア
機関名	・ソウル大学校医科大学	・カリフォルニア大学 ロスアンゼルス校・看護学部	・イェテボリ大学	・シドニー大学医学部
	・ソウル大学校看護大学	・コーネル大学医学部	・ウブサラ大学	
	・ソウル大学校公衆衛生大学院	・シカゴ大学医学部	・マックスプランク協会	
	・マヒドン大学	・ジョンズ・ホプキンス大学	・ノッティンガム大学医学部・ 健康科学部	
	・マヒドン大学大学熱帯医学部	・ノースカロライナ大学 チャペルヒル校看護学部	・ミュンヘン・ルートヴィヒ ＝マクシミリアン大学	
	・チュロンコン大学 公衆衛生部	・ハワイ大学マノア校	・レスター大学医学部	
	・国立台湾大学医学部	・ハワイ大学医学部		
	・台北医学大学医学部	・ペンシルベニア大学医学部		
	・台北医学大学看護学部	・ミシガン大学医学部		
	・台北医学大学公衆衛生栄養 学部	・ワシントン大学医学部		
	・国際下痢疾患研究所			
	・香港理工大学看護学部			

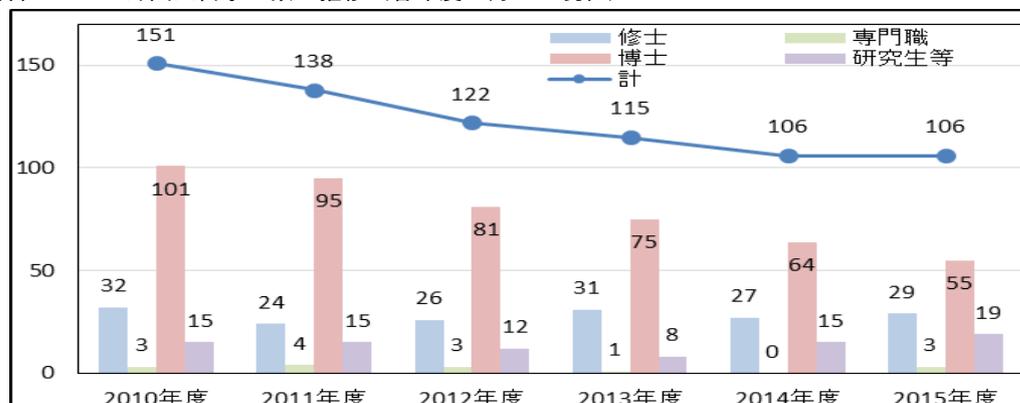
※下線は2010年度以降（第2期）に協定を締結した機関

資料5-9：学術交流協定締結数の推移（各年度5月1日現在。2015年度のみ年度末現在）



例年、大学院全体で、100～150名の外国人留学生を受け入れている（資料5-10）。2011年度の東日本大地震の影響、また、2010～2013年にかけての日中、日韓関係の悪化により、短期留学生も含めた外国人留学生の総数は減少しているが、国費留学生の増加など、本研究科の国際交流の推進が一定数の留学生確保に貢献している。

資料5-10：外国人留学生数の推移（各年度5月1日現在）



(水準)

期待される水準を上回る

(判断理由)

各専攻や医学部附属病院スタッフによる最先端の医学・医療へ展開する教育水準は高く、現在の教員組織やその構成、教育内容の改善に向けた取組は、卓越した学識と高度な独創的研究能力を有する国際的リーダーとして、明日の医学、医療を切り開く能力を身につけさせるという、本研究科の教育目標に合致した適切なものであり、内外からの期待を上回る水準にある。このことは、後述の「がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン」、「未来医療研究人材養成拠点形成事業」など文部科学省事業の推進、4つのグローバル COE 拠点の運営や、博士課程教育リーディングプログラムなどにより視野の広い、国際性豊かな分野横断型大学院教育を進めていることなどからも裏付けられる。

また、研究・教育の両面で非常にレベルが高い海外の学術機関との協定締結を推進しており、教員・研究者、学生の交流を促進し、最先端の教育方法を共有するなど、大学院教育の国際化、教育水準の向上に寄与している。

観点 教育内容・方法

(観点に係る状況)

「東京大学大学院医学系研究科の教育目的」に基づき、2014 年度に、各課程の学位授与方針、教育課程の編成・実施方針を明文化した（資料 5-11）。

資料 5-11：学位授与方針、教育課程の編成・実施方針

<学位授与方針>

東京大学大学院医学系研究科では教育研究上の目的及び求める学生像に定める人材を育成するため、所定期間在学し、必要な単位を取得のうえ、学位論文審査及び試験に合格し、次のとおり優れた知識と能力を身につけている学生に学位を授与します。また規定に則り、同等の優れた知識と能力を身につけている研究者に、論文審査等を経て学位を授与する場合があります。

【修士課程】

- 幅広い医学の基礎知識及び健康科学、看護学、国際保健学又は医科学の知識を身につけ、社会に貢献するための高い倫理観と責任感を持つ。
- 健康科学、看護学、国際保健学又は医科学の知識を自然科学や社会科学の方法論により活用できる能力を身につけている。
- 健康科学・看護学専攻では、修士論文は、指導教員の指導をふまえて作成・発表され、健康科学看護学領域における研究活動を行っていく上での基礎的な能力について評価される。
- 国際保健学専攻では、自立した研究者として最先端の国際的研究を遂行するための基礎的能力が備わっているか、専攻における論文発表会および修士論文によって評価される。
- 医科学専攻では、基礎医学・生命科学の分野において自立した研究者として独創的な最先端の研究活動を行っていくために必要な基盤となる能力が備わっているか、医科学専攻修士論文および論文発表会における発表と質疑応答によって評価される。

【博士後期課程】

保健学において高い学識を有するとともに研究者としての品格を備え、かつ将来的に自立した研究者として研究活動を行っていく能力を有していることが必要とされる。そのうえで次にあげる具体的な基準に基づいて学位論文が審査される。

- 論文の学術的価値および完成度が高く、東京大学大学院医学系研究科にふさわしいものである。
- 研究の背景と位置づけが十分に説明されている。
- 研究に新規性と独創性がある。
- 研究方法およびデータ解析が妥当である。
- 研究の倫理性に問題がない。
- 実験・データが質・量ともに充分であり研究結果が明確である。
- 結果の解釈および結論が妥当である。
- 議論が論理的で焦点が定まっている。
- 博士課程修了後 6ヶ月以内に厳正な査読を有する英文学術雑誌に投稿することが可能と判定される。

【医学博士課程】

医学あるいは保健学において高い学識を有するとともに研究者としての品格と高度の倫理観を備え、かつ課程修了後に自立した研究者として研究活動を遂行する能力と責任感を有していることが必要とされる。そのうえで以下の知識と能力を獲得した学生に博士(医学)の学位を授与する。

- 優れた分析力や着想力に基づく学術的業績を有する。学術的業績は、次にあげる具体的な基準に基づいて審査される学位論文によって評価される。
- 論文の学術的価値および完成度が高く、東京大学大学院医学系研究科にふさわしいものである。
- 研究の背景と位置づけが十分に説明されている。
- 研究に新規性と独創性がある。
- 研究方法およびデータ解析が妥当である。
- 研究の倫理性に問題がない。
- 実験・データが質・量ともに充分であり研究結果が明確である。
- 結果の解釈および結論が妥当である。
- 議論が論理的で焦点が定まっている。
- 博士課程修了後 6ヶ月以内に厳正な査読を有する英文学術雑誌に投稿することが可能と判定される。
- 広い国際的視野と高いコミュニケーション能力を有する。
- 医学の発展に寄与するリーダーとして能力を有する。

【専門職学位課程】

公共健康医学専攻専門職大学院では、①人間集団の健康を対象にした分析手法を身につけ、②保健医療に関わる社会制度を体系的に理解し、③政策立案・マネジメント能力に優れた、④パブリックヘルス・マインドを持った高度専門職業人の育成をするため、教育課程の編成・実施方針に沿った所定の単位を取得した学生に公衆衛生学修士(専門職)の学位を授与する。

<教育課程の編成・実施方針>

東京大学大学院医学系研究科は、研究科の学位授与方針で示した目標を学生が達成できるよう、以下の方針に基づき教育課程を体系的に編成・実施します。

【修士課程】

学位授与方針で示した目標を学生が達成できるよう、以下の方針に基づき教育課程を編成・実施する。

- 健康科学・看護学専攻については、研究、教育の基礎的な知識、技術、倫理を身につけるための科目を開講・実施する。また専門看護師、保健師または助産師の教育コースを設けて国家資格取得に向けた講義・実習を行う。
- 国際保健学専攻については、国際的研究を遂行するための基礎的な知識、技術、倫理を学生が身につけるための科目を開講・実施する。平行して国際保健学上の基礎的なテーマに関する研究を指導し、実験・調査の基礎的な知識・技術や研究倫理、研究発表の方法を体得させる。
- 医科学専攻については、医学以外のバックグラウンドを持つ学生が入学後広く医学に接し、医学研究の力を養成するため、
 - (1) 医学基礎講義（共通の医学の知識を身につけさせるため、多方面にわたる医学の基礎知識を教授するとともに、最先端の医学研究について概説する）、
 - (2) 病院実習（最先端の医療現場を体験させ、医療従事者との交流を図る。また、病気、患者及び診断・治療の実態を理解し医学研究者としての心構えを体得させるため、各診療科の訪問、診療・手術の見学、等を通して医療現場の現状と課題を実習させる）、
 - (3) 研究室ローテーション（配属先を決めずに入學した学生に対し、各研究室に一定期間、体験在籍）を経た後、基礎系研究室に配属し学位研究の指導を行う。

【博士後期課程】

学位授与方針で示した目標を学生が達成できるよう、以下の方針に基づき教育課程を編成・実施する。

- 健康科学・看護学専攻、国際保健学専攻については、研究を企画・遂行するための最先端の知識、技術、倫理を学生が身につけるため、特論、演習、実習などの科目を開講・実施する。平行して最先端のテーマに関する研究を指導し、実験・調査に必要な高度の知識・技術や研究倫理、研究の計画申請・成果発表の方法を体得させる。

【医学博士課程】

学位授与方針で示した目標を学生が達成できるよう、以下の方針に基づき教育課程を編成・実施する。

- 医学の専門的知識と技能を結集した学際的研究・教育を提供する。
- 世界をリードする先端的・独創的研究を実施するための高度な実験法や技術修得の場を提供する。
- 科学の進歩に適応しうる問題解決能力と高度で幅広い知識を修得する場を提供する。
- 先端研究を推進していくためのコミュニケーション能力、国際的視野、倫理性を修得する。
- 高度な国際的視野およびコミュニケーション能力を獲得することを可能とする教育を実施する。
- 学際的・国際的に研究を展開し、研究の社会的還元までを目指すリーダーシップを発揮することを可能とする修学環境を提供する。

【専門職学位課程】

公共健康医学専攻専門職大学院では①人間集団の健康を対象にした分析手法を身につけ、②保健医療に関わる社会制度を体系的に理解し、③政策立案・マネジメント能力に優れた、④パブリックヘルス・マインドを持った高度専門職業人の育成をする。公共健康医学専攻（専門職修士）課程では、上記目的を達成するために以下の方針に基づき教育課程を編成・実施する。

- カリキュラムは、疫学・数量分析を対象にした科目群、保健医療領域の行動科学・社会科学に関連した科目群、保健医療及び臨床現場に関わる政策・マネジメントを対象にした科目群により構成され、公衆衛生の大学院教育のグローバルスタンダードに相当する科目は必修とする。
- 1年制課程については選抜の要件として実務経験や職業倫理性を考慮し、2年制課程については、指導教員のもとで「課題研究」に取り組むことで、公衆衛生の実践活動や研究活動に直に接する機会等を得て、国民や地域住民の健康維持・増進に関わる専門家としての自覚を養う。
- 理論と実践の双方に配慮し、講義・演習など多様な教育手法を取り入れたカリキュラムを構成する。
- 公衆衛生の今日的課題の性質を鑑み、グローバルな視野を育むテーマを取り上げる。

○教育課程の編成

すべての教育プログラム・カリキュラムは、学位授与方針、教育課程の編成・実施方針に準拠して構築され、医学の推進、医学における先端的・独創的活動、医学における国際的リーダーの養成という本研究科の教育目的に鑑み、最先端の医学・医療に関する教育が行われている。

授業科目は「医学共通科目（医学共通講義、学集中実習、医学特論）」と専攻毎の科目から構成され、前者では医学に共通する課題について学部からの発展型として、医学領域の多様性に鑑み、細胞生物学、内科学等総計 20 以上からなるコースなどの多彩な専門科目について、幅広くかつ深い最先端の内容をもつ講義・実習を中心とした教育がなされている（資料 5-12）。後者の専攻毎の科目においては、各専攻の分野毎に卓越した教員によって、文献解釈、実験、討論、論文作成の指導等からなる広汎かつ奥行きのある演習と実習により、高度な知的指導者の養成を行っている。

東京大学医学系研究科 分析項目 I

資料5-12: 医学共通科目 (2015年度)

授 業 科 目	単 位	ター ム	曜 日	時 限	開 始 日	講 義 室	担 当 専 攻 等
医学共通講義 I 分子細胞生物学入門	2	S1・A1	火	2	4/7	⑥(あるいは④)	分子
医学共通講義 II 分子生物学実験法	2	A2・W	火	3	11/10	⑤	分子
医学共通講義 III 機能生物学入門	2	通年	月	4	5/18	⑥	機能
医学共通講義 IV 感染・免疫・腫瘍学(I)ー分子から疾病までー	2	S1・A1	火	5	4/7	⑥	病因
医学共通講義 V 感染・免疫・腫瘍学(II) ー分子から疾病までー	2	A2・W	火	4	11/10	⑥	病因
医学共通講義 VI 医用生体工学入門	2	S1・A1	火	3	4/7	⑥	生体
医学共通講義 VII 神経科学入門	2	S1・A1	火	4	4/7	⑥	脳神
医学共通講義 VIII 内科学入門	2	A2・W	火	3	11/10	⑥	内科
医学共通講義 IX 生殖・発達・加齢医学入門	2	A2・W	火	5	11/10	⑥	生発
医学共通講義 X 医学統計学入門	2	A2・W	火	2	11/10	⑥	公健
医学共通講義 X I 健康アウトカム測定法の開発および検証(入門編)1 Introduction to Scale Development 1	2	S1・A1	木	2	4/9	新棟2FN202	国保
医学共通講義 X II 健康アウトカム測定法の開発および検証(入門編)2 Introduction to Scale Development 2	2	A2・W	木	2	11/12	新棟2FN202	国保
医学共通講義 X VIII 健康環境科学入門	2	A2・W	月	2	11/2	SPH講義室、 医①N206	社会
医学共通講義 X X X I ナノバイオ工学	2	夏	水	5	4/8	工11号館 講堂	工学系
医学共通講義 X X X II Basic Tools for Population/Public Health Research	2	S1・A1		TBA	TBA	TBA	国保
医学共通講義 X X X III 医療・看護・保健分野における情報技術	2	A2・W	火	4	11/10	⑤	公健
医学共通講義 X X X IV The Urban Environment and Health: An Introduction	2	A2		TBA	TBA	TBA	国保
医学共通講義 X X X V 放射線生物学 Radiation Biology	2	S1・A1	水	1	4/8	工学部2号館 211教室	生体
医学共通講義 X X X VI What makes public healthy	2	A2・W	月	3	11/2	医3号館別棟 W401	社会
医学共通講義 X X X VII Urban environmental health in Asia	2	S1	水	4・5		工学部14号 館145教室	国保
医学共通講義 X X X VIII 臨床疫学	2	S2	水	1・2	6/10	SPH講義室	公健
医学共通講義 X X X IX グローバルヘルスにおけるアントレプレナーシップ Global Health Entrepreneurship Program	2	A2・W		TBA	TBA		国保

東京大学医学系研究科 分析項目 I

授 業 科 目	単 位	ターム	曜日	時限	開始日	講義室	担当 専攻等
医学集中実習 I 分子細胞生物学入門	2	w		9:00~ 17:00	1月	教育研究棟 3階	分子
医学集中実習 II 分子生物学実習	2	w			2/1	分子生物学 教室	分子
医学集中実習 VII マイクロサージャリー	2	S1・A1	木	3・4	4/23	形成外科 動物実験室	外科
医学集中実習 VIII 硬組織生物学実験法	2	A2・W			科目紹介 参照		外科
医学集中実習 IX トランスレーショナルリサーチ看護学入門	2	SP		1~4	7/13	医科研 附属病院	健看
医学集中実習 X II 神経病理・画像・臨床連関	2	通年	月	5	4/13	附属病院 オートプシー室	病因
医学集中実習 X III 臨床組織・電子顕微鏡学	2	通年	水	5	4/15	附属病院 オートプシー室	病因
医科学特論 I 生命科学における異分野融合	2	S1・A1	月	13:30 ~ 15:15	4/13	医科研 1号館講堂	医科研

医学系教育の充実を一層図るため、文部科学省「がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン」においては、最先端研究とがんの実地医療の両方に力を注ぎ、広い視点からがん医療を先導し改革することのできる医療人の育成を目標に2012年度から「がん治療のブレイクスルーを担う医療人育成」プログラムを推進し、「がん研究医療人養成コース」では日本のがん医療を支えるリーダーの育成を目指している（資料5-13）。

資料5-13：がん研究医療人材養成コース概要

がん研究医療人養成コース

自らの臨床経験に基づいて、現在のがん医療における患者の視点からの課題を抽出し、それに対する根本的な解決を目標として設定し、その実現のために本質的な研究を遂行する能力を有する人材を養成することを本コースの目標とします。具体的には、現在の治療では完治が困難な難治がんに対する新規治療方法につながる発見や、がん治療における多面的な身体・精神症状を軽減する方法の創出が成果として期待されます。

- 履修対象者：医学系研究科医学博士課程（4年）・博士後期課程大学院生（3年）
- 教育目標：自らの臨床経験に基づいて、現在のがん医療における患者の視点からの課題を抽出し、それに対する根本的な解決を目標設定し、その実現のために本質的な研究を遂行する能力を有する人材を育成する。
- 教育内容：がん患者が抱える多面的な問題を理解し解決するために、がんに関係する医学共通科目の受講によって、がん医療に関する広い視野を養うとともに、先端的研究に関する医学共通科目受講や合同セミナーに参加することによって、がんに関する本質的な研究が遂行できる能力を養う。このような専門領域横断的教育を、がん医療に係る**全職種を対象**として実施する。

さらに、急速に進展する高齢化等に伴う医療課題の解決に貢献し、国内外の医学・医療の発展を強力に推進するため、文部科学省「未来医療研究人材養成拠点形成事業」において、医学系研究科にメディカル・イノベーション推進人材の要請のための「臨床発実用化マネジメント人材養成拠点」、ならびにリサーチマインドを持った総合診療医の養成のための「新しい大学-地域間連携での研究人材養成」プログラムを2013年度より設置している（資料5-14）。

資料5-14:「新しい大学ー地域間連携での研究人材養成」事業の概要

「治し、支える医療」の実践にむけ、教育・研究・臨床の3部門を担う在宅医療学講座を設置し、高度急性期を担う東大病院から、在宅療養を含めた包括的な視点に立った新しいスタイルの地域医療連携モデルを提示する。具体的には、地域の行政や医療機関と本学の協働モデルである柏地区の基盤も活用し、本郷の東大医学部及び病院によるリーダーシップの下、①学部学生、研修医、開業医等を対象に大学ー地域間連携に重きを置いた形で在宅医療の臨床教育を行い、地域包括ケアを支える医療人材の養成や医道の再教育に取り組むとともに、②在宅療養の虚弱高齢者、難治疾患患者等への臓器横断的・全人的な診療アプローチを基盤とした臨床研究を推進し、暗黙知が多い在宅医療の臨床の現状を本学の試みによって学問体系化し、③「生活臨床」に向けての学問体系の確立を目指して、在宅医療分野における大学のロールモデルを示し、日本の医療改革の橋頭保の役割を果たす。

公共健康医学専攻における教育課程は、①疫学・数量分析を対象にした科目群、②保健医療領域の行動科学・社会科学に関連した科目群、③保健医療及び臨床現場に関わる政策・評価・マネジメントを対象にした科目群の、大きな3つの教育科目群により構成され、さらに国際的な公衆衛生専門教育のスタンダードに即して「環境健康医学」を加えている。また、公衆衛生の大学院教育のグローバルスタンダードとなっている5つの基礎知識領域（疫学、生物統計学、社会科学・行動科学的方法論、医療管理学、環境保健学）について必修科目を配している（資料5-15）。

資料5-15: 公共健康医学専攻必修授業科目・分野対応表

必修5分野名		授業科目	必修5分野対応
①	生物統計学	医学データの統計解析	①
②	疫学	疫学研究と実践	②
③	社会科学・行動科学的方法論	医学研究のデザイン	②
④	医療管理学	精神保健学 I	③
⑤	環境保健学	健康教育学	③
		医療倫理学 I	③
		社会と健康 I	③
		法医学・医事法学	③
		健康医療政策学	④
		医療情報システム学	④
		環境健康医学	⑤

○授業形態の組合せと学習指導法の工夫

研究者養成を最重要課題としてとらえ、講義、演習、研究指導を通して、各分野の国際的リーダーの輩出を目指している。

修士課程の医科学専攻では、入学後の夏学期に医学全般の体系立てた講義を行い、医学部以外の出身者に医学の幅広い分野について理解を深めさせている。また、医学部附属病院における病院見学実習も行い、医学研究の成果が実際に患者に対して適用されている現場を見ることによって学習意欲を高めている。

医学博士課程では、学生は、医学共通科目の多彩な講義科目の中から講義を選択することができる。特に、分子細胞生物学、脳科学研究法などについて基本的な研究手法を学ぶ実習コースも用意されていることが特徴である。

国際保健学専攻では、その教育上の目的及び海外からの留学生が多いことから、大学院の講義は修士課程から博士課程まで全て英語で行っている。

健康科学・看護学専攻の修士課程では、科学的根拠に基づいて実践を改善できる人材及び実践と関わりながら現象を解明・変革できる研究者の育成を目指している。専門領域の現象に精通できるように、講義だけでなく実習にも力を入れており、臨床では褥瘡回診や専門外来で実習している。博士後期課程では、少子高齢社会への処方箋となる研究を様々な観点から実施している。

東京大学医学系研究科 分析項目 I

公共健康医学専攻では、従来からの公衆衛生学の諸分野に加えて、近年派生しつつある公衆衛生の諸課題に対応できる教育内容を整備し、また 2013 年度から 2015 年度にかけて 7 つの新規授業を開講する（「社会と健康 I, II」、「臨床医学概論」、「医学研究と CDISC 標準」、「産業保健の理論と実践」、「保健医療人材育成学」、「学習者評価学」）など、社会や学生からの要請に応えられるようにしている。

その他、多数の専攻の連携によるグローバル COE プログラムや博士課程教育リーディングプログラムが採択されており、多彩なセミナーや学際的な講義が用意されている。

特に、博士課程教育リーディングプログラム GPLLI では、欧米・アジアの大学・研究機関・企業への短期留学に大学院学生を派遣する取組等が行われており、医学系研究科の学生が多数参加している（資料 5-16）。

資料 5-16 : GPLLI 短期留学 学生派遣実績

年度	学生数・所属研究科	留学先
2012	1 薬	University of Texas, M.D. Anderson Cancer Center (UTMDACC)
	1 薬	École Polytechnique Fédérale de Lausanne (EPFL)
	1 工	Colorado State University
	1 理	Novartis Biocamp *
	2 理	Global Young Scientists Summit in Singapore*
	1 薬	University of Helsinki
	1 理	Massachusetts General Hospital
2013	1 工	Massachusetts General Hospital
	3 医工薬	École Polytechnique Fédérale de Lausanne (EPFL)
	3 理	Global Young Scientists Summit in Singapore*
	1 薬	Ludwig Maximilian University of Munich, LMU
	1 医	Novartis Biocamp
	2 医薬	University of Texas, M.D. Anderson Cancer Center (UTMDACC)
	1 医	WHO
2014	2 薬	Ludwig-Maximilians-Universität München
	3 医工薬	École Polytechnique Fédérale de Lausanne (EPFL)
	1 工	Clemson University
	3 医、薬2名	Center of Integration of Medicine and Innovative Technology (CIMIT)
	1 薬	University of Texas MD Anderson Cancer Center
	1 理	NIH / NIAAA
	1 工	Columbia University, Columbia Center for Translational Immunology
2015	1 工	Clemson University
	2 医薬	Eisai Inc.
	3 医工薬	École Polytechnique Fédérale de Lausanne (EPFL)
	1 医	University of Texas, M.D. Anderson Cancer Center (UTMDACC)
	1 薬	California Institute of Technology
	1 医	MGH
	1 医	Uppsala University
	1 薬	Yale University
	1 薬	Vrije Universiteit Brussel, Brussels, Belgium
	2 医	University of Oxford
	1 医	Centre hospitalier regional universitaire de Montpellier, Institute for Regenerative Medicine and Biotherapy (IRMB)

<留学件数まとめ:所属研究科別>

年度	医	工	薬	理	計
2012	0	1	3	4	8
2013	4	2	3	3	12
2014	2	3	6	1	12
2015	8	2	5	0	15
合計	14	8	17	8	47

東京大学医学系研究科 分析項目 I

さらに、「GPLL セミナー」として外国人講師によるセミナーを充実し（資料5-17）、国際会議等における学会発表に加え、学生が自身の幅を広げるための主体的活動に対する支援として「海外短期研修」、また、海外研究機関等での研究発表および討論を行う「議論力強化ワークショップ」を実施している（資料5-18）。

資料5-17：GPLLI セミナー開催実績

開催日	講師		演題/セミナーの目的
2014年5月26日	Prof.	Tai Hyun Park School of Chemical and Biological Engineering, Advanced Institutes of Convergence Technology, Seoul National University, Korea	Bioelectronic Nose and Tongue
2015年5月1日	Prof.	Bo Nilsson, Kristin Nilsson Department of Immunology, Genetics and pathology, Clinical Immunology, Rudbeck Laboratoriet, Uppsala University, Sweden	異分野・異文化の研究者に対し、コース生が英語で わかりやすく研究発表し、質疑応答・ディスカッション を通して、異分野コミュニケーション能力を磨く。
2015年6月9日	Prof.	Randall Bateman Neurology Department, Washington University School of Medicine in St. Louis, U.S.A.	From translational clinical research to prevention trials – understanding and targeting the pathophysiology of Alzheimer's disease
2015年7月29日	Dr.	Hironori Hojo Center for Regenerative Medicine and Stem Cell Research, University of Southern California, U.S.A.	異分野・異文化の研究者に対し、コース生が英語で わかりやすく研究発表し、質疑応答・ディスカッション を通して、異分野コミュニケーション能力を磨く。
2015年7月29日	Dr.	北條 宏徳 Dept. Stem Cell Biology and Regenerative Medicine, Eli and Edythe Broad-CIRM, Center for Regenerative Medicine and Stem Cell Research, W.M. Keck School of Medicine, University of Southern California, USA	理世代シーケンサーを用いた転写制御因子Sp7の 骨形成制御機構の解析
2015年9月9日	Dr.	Satomi Tsuboko Freelance translator (修了生) San Diego, U.S.A.	異分野・異文化の研究者に対し、コース生が英語で わかりやすく研究発表し、質疑応答・ディスカッション を通して、異分野コミュニケーション能力を磨く。
2015年9月10日	Dr.	Larry Young Department of Psychiatry, Emory University School of Medicine, U.S.A.	異分野・異文化の研究者に対し、コース生が英語で わかりやすく研究発表し、質疑応答・ディスカッション を通して、異分野コミュニケーション能力を磨く。
2015年11月21日	Prof.	Russell H. Taylor Johns Hopkins University, U.S.A.	Medical Robotics and Computer-Integrated Interventional Medicine
2016年1月26日	Prof.	Shih-Jung Liu Department of Mechanical Engineering, Chang Gung University, Taiwan	異分野・異文化の研究者に対し、コース生が英語で わかりやすく研究発表し、質疑応答・ディスカッション を通して、異分野コミュニケーション能力を磨く。

資料5-18: GPLLI 海外短期研修・議論力強化 WS 実績 (医学系研究科)

年度	発表予定演題/主体的活動	会合名/訪問先	訪問都市・国
2014	cRGD-mediated targeting of lymph node metastasis enhance the activity of drug-loaded polymeric micelles	NanoDDS' 14	North Carolina, USA
	Treatment of Bone Defect by Transplantation of Three-dimensional Spheroid after Ex Vivo Gene Transfection with Osteogenic Factors	European Society for Gene and Cell Therapy	Hague
	Qualitative Rather than Quantitative Changes are Hallmarks of Fibroblasts in Bleomycin-induced Pulmonary Fibrosis	The 4th NIF Winter School on Advanced Immunology	Singapore
	共同研究先研究室を訪問し、新たな解析技術を習得し、今後の共同研究の方針について議論する。	Cardiff University	Cardiff, UK
	Kinesin Superfamily Proteins and Intracellular transport	Johannes Gutenberg University Mainz, Friedrich Schiller University Jena, Carl Zeiss, Technical University Dresden, Ludwig Maximilians University Munich	Germany
	Regulation of Notch signaling by parafibromin		
	Elucidation of the pathogenesis of TDP-43 proteinopathy		
	CLAC influences A β plaques morphology and ISF A β metabolism.		
	Treating bone defect by transplantation of genetically modified MSC spheroids		
	アルツハイマー病脳老人班構成成分CLAC-Pの中脳神経における生理機能の解明		
パーキンソン病関連遺伝子LRRK2のリンソームにおける機能			
2015	卒業後の留学先候補研究室を訪問し、ポスドクとしての受入れ可否について面接を受け、機器や構成員等研究環境を確認する。研究室のセミナーでプロジェクトについて発表し、将来のプロジェクトの方向性について議論する。	University of California	San Francisco, USA
	ケンブリッジ大学の Centre for Trophoblast Researchグループが主催する1週間のPlacental Biologyコースに参加し、英語での講義、ディスカッションを行う。	Placental Biology Course 2015 and CTR Annual Trophoblast (CAT) Meeting 2015	Cambridge, UK
	Critical role of commensal flora-dependent type 3 innate lymphoid cells (ILC3) for the induction and regulation of Paneth cells	国際粘膜免疫学会	Berlin, Germany
	Identification of a host cell protein, RanBP10, which acts like ICP0 in HSV-1-infected cells	International Herpesvirus Workshop	Boise, Idaho, USA
	10th Brain Research Conferenceでポスター発表を行う。神経変性疾患におけるRNA代謝異常というテーマに特化し、各国の高名な研究者が集い専門性の高い議論が行われる。	Neuroscience 2015 (SfN's 435th annual meeting)	Chicago, USA
	Raster image correlation spectroscopy in dendritic spines of cultured hippocampal neurons	Cold Spring Harbor Asia conference (New Advances in Optical Imaging of Live Cells and Organisms)	Suzhou, China
	CD74-NRG1, an oncogenic fusion gene product, leads to insulin-like growth factor 2 autocrine/paracrine circuit and confers cancer stem cell properties	Keystone symposia (Stem cells and Cancers)	Breckenridge, Colorado, USA
	Development of gene therapy for achondroplasia	NIH, MedImmune, Johns Hopkins U, Yale University, Novartis Institute for Biomedical Research, Columbia University)	USA
	Intestinal Specialized Epithelial M Cells Play Protective Roles in Mucosal Infection		
	議論力強化ワークショップ。口頭またはポスター発表を行い、訪問先の大学院生・企業研究者との議論を行い、交流を深める。	Erbert-Karls-Universitaet Heidelberg, Eberhard-Karls-Universitaet Tuebingen, Ludwig-Maximilians-Universitaet Muenchen	Germany
In vitro reconstitution of membrane recruitment of Stx17		Germany	
Kinesin superfamily proteins and intracellular transport	Technical University of Dresden	Germany	

近年の医学・生命科学の進歩による研究内容の高度化・多様化に伴い、研究を施行する際に遵守すべき事項も急速に増加しつつある。とくに新しく研究を始める研究者が留意すべきことを中心に、「東京大学大学院医学系研究科・研究ガイドライン (実験系)」を2010年10月に、また、人や人の集団を対象にして、医学および健康に関わる調査研究を新たに始める研究者が留意すべきことを中心にまとめた「東京大学大学院医学系研究科・研究ガイドライン (調査系)」を2011年1月に作成し、途中改訂もを行い、研究を志す学生の教育に活用している。

東京大学医学系研究科 分析項目 I

また、大学院学生・指導教員を対象とした研究倫理セミナーを毎年度約 1,500 名が受講しており（資料 5-19）、学位論文作成時の iThenticate（論文剽窃チェックツール）の使用など、研究倫理教育を徹底している。

資料 5-19：研究倫理セミナー実施状況

年度	テーマ	参加者数		
		教職員	大学院生	合計
2010 年度	「ヒト幹細胞を用いる臨床研究に関する指針の現状」 「各種指針と医学系研究科・医学部における研究倫理審査体制」 「研究倫理審査を受けるための手続き」 「臨床研究における個人情報管理」 「病院臨床試験審査委員会への申請と臨床研究支援センターの支援」	494	130	624
	「医学研究と利益相反-日米比較の視点から-」 「各種指針と医学系研究科・医学部における研究倫理審査体制」 「研究倫理審査を受けるための手続き」 「臨床研究における個人情報管理」 「病院臨床試験審査委員会への申請と臨床研究支援センターの支援」	218	60	278
	「東大病院における臨床倫理コンサルテーション」 「各種指針と医学系研究科・医学部における研究倫理審査体制」 「研究倫理審査を受けるための手続き」 「臨床研究における個人情報管理」 「病院臨床試験審査委員会への申請と臨床研究支援センターの支援」	277	58	335
	計	989	248	1,237
2011 年度	「責任ある研究活動」 「各種指針と医学系研究科・医学部における研究倫理審査体制」 「研究倫理審査を受けるための手続き」 「臨床研究における個人情報管理」 「病院臨床試験審査委員会への申請と臨床研究支援センターの支援」	433	179	612
	「薬事戦略相談事業について」 「各種指針と医学系研究科・医学部における研究倫理審査体制」 「研究倫理審査を受けるための手続き」 「臨床研究における個人情報管理」 「病院臨床試験審査委員会への申請と臨床研究支援センターの支援」	257	89	346
	「産業界の取り組み・企業活動と医療機関等の関係の透明性がトピック」 「各種指針と医学系研究科・医学部における研究倫理審査体制」 「研究倫理審査を受けるための手続き」 「臨床研究における個人情報管理」 「病院臨床試験審査委員会への申請と臨床研究支援センターの支援」	273	70	343
	計	963	338	1,301
2012 年度	「臨床研究の信頼性確保・原資料とrisk-based approach」 「各種指針と医学系研究科・医学部における研究倫理審査体制」 「研究倫理審査を受けるための手続き」 「臨床研究における個人情報管理」 「病院臨床試験審査委員会への申請と臨床研究支援センターの支援」	535	180	715
	基調講演 「各種指針と医学系研究科・医学部における研究倫理審査体制」 「研究倫理審査を受けるための手続き」 「臨床研究における個人情報管理」 「病院臨床試験審査委員会への申請と臨床研究支援センターの支援」	287	82	369
	「医療機器開発の現状と課題」 「各種指針と医学系研究科・医学部における研究倫理審査体制」 「研究倫理審査を受けるための手続き」 「臨床研究における個人情報管理」 「病院臨床試験審査委員会への申請と臨床研究支援センターの支援」	270	78	348
	計	1,092	340	1,432
2013 年度	基調講演 「各種指針と医学系研究科・医学部における研究倫理審査体制」 「研究倫理審査を受けるための手続き」 「臨床研究における個人情報管理」 「病院臨床試験審査委員会への申請と臨床研究支援センターの支援」	653	231	884
	基調講演 「各種指針と医学系研究科・医学部における研究倫理審査体制」 「研究倫理審査を受けるための手続き」 「臨床研究における個人情報管理」 「病院臨床試験審査委員会への申請と臨床研究支援センターの支援」	225	60	285
	「臨床研究における信頼性確保と利益相反管理」 「各種指針と医学系研究科・医学部における研究倫理審査体制」 「研究倫理審査を受けるための手続き」 「臨床研究における個人情報管理」 「病院臨床試験審査委員会への申請と臨床研究支援センターの支援」	347	105	452
	計	1,225	396	1,621

東京大学医学系研究科 分析項目 I

年度	テーマ	参加者数		
		教職員	大学院生	合計
2014年度	【新規】 「医学系研究科・医学部附属病院における倫理審査体制および研究倫理について」 「規制の概要：法令・ガイドラインおよび本学における規則・手順」 「研究の公正さと利益相反の管理」 「臨床研究における個人情報管理」 「医学系研究科・医学部附属病院における倫理審査関連の支援窓口・申請方法の紹介」	565	181	746
	【更新】 「規制関連および学内体制の変更点」 「研究倫理のトピックスとケーススタディ」 「研究の公正さと利益相反の管理」 「医学系研究科・医学部附属病院における倫理審査関連の支援体制について」			
	同上	356	101	457
	同上	226	79	305
	計	1,147	361	1,508
2015年度	【新規】 「医学系研究科・医学部附属病院における倫理審査体制および研究倫理について」 「規制の概要：法令・ガイドラインおよび本学における規則・手順」 「研究の公正さと利益相反の管理」 「臨床研究における個人情報管理」 「医学系研究科・医学部附属病院における倫理審査関連の支援窓口・申請方法の紹介」	379	109	488
	【更新】 「規制関連および学内体制の変更点」 「研究倫理のトピックスとケーススタディ」 「研究の公正さと利益相反の管理」 「医学系研究科・医学部附属病院における倫理審査関連の支援体制について」			
	同上(DVD)	77	39	116
	同上(DVD)	60	20	80
	同上(DVD)	117	22	139
	同上(DVD)	55	13	68
	同上(DVD)	40	9	49
	同上(DVD)	39	13	52
	同上(DVD)	38	18	56
	同上(DVD)	94	22	116
	同上(DVD)	79	17	96
	同上(DVD)	106	46	152
	計	1,084	328	1,412

さらに、2015年度には、研究成果発表に用いたデータや実験ノート等の研究資料、試薬等の研究試料、実験装置の情報等を保存・保管に関わる基本的責務を明確にしたガイドライン（生命系研究データ保存のガイドライン／社会医学系研究データ保存のガイドライン）を策定し、研究成果の再現性や反証可能性の確保という科学的方法における要請のみならず、研究者・学生自身を守るための教育に活用している。

(水準)

期待される水準を上回る。

(判断理由)

より高度な専門知識を身につけていくという大学院課程編成の方針に基づき、体系的な教育課程を編成している。かつ医学領域の多様性と変化に対応して、「がん研究医療人養成コース」等で、幅広くかつ深い内容の教育を提供し、また、「新しい大学ー地域間連携での研究人材養成」プログラムを活用して、国内外の医学・医療の発展を強力に推進する未来医療人材の育成を行っている。

医学系研究科の指導体制は、各専攻の多様な教育目的に合致したものになっており、特徴的な講義と実習の導入及び的確な研究指導が行われている。さらに、学生の多様なニーズや社会の要請に迅速に対応して、グローバル COE プログラムや博士課程教育リーディングプログラムを活用した多彩なセミナーや学際的講義、外国人講師によるセミナーの充実や海外研修を実施するなどして、国際化にも対応しており、かつガイドラインの策定等、研究倫理教育を充実させている。

分析項目Ⅱ 教育成果の状況

観点 学業の成果

(観点に係る状況)

○学生が身に付けた学力や資質・能力

各課程の学生の標準修業年限で修了率を以下に示す(資料5-20)。

修士課程、専門職学位課程においては、おおむね高い標準修業年限修了率である。博士後期課程、医学博士課程においては、必ずしも標準修業年限修了率は高いとはいえないが、これは、本研究科が、国際的水準にある研究者養成を目標としており、学生が臨床経験や国内外の学術機関等での研修経験を踏まえて研究活動の質を向上させていることの結果ともいえる。

資料5-20：大学院学生の標準修業年限内修了率

		2010年度	2011年度	2012年度	2013年度	2014年度	2015年度
修士課程	医科学	82.6%	100%	87.5%	91.3%	84.2%	84.0%
	保健学	82.1%	78.6%	87.5%	82.4%	80.5%	82.2%
博士後期課程		59.5%	54.3%	57.9%	47.6%	67.9%	59.4%
医学博士課程		76.2%	78.1%	77.4%	72.4%	72.0%	71.8%
専門職学位課程		92.6%	85.7%	100%	93.3%	86.7%	93.3%

学生は独立のテーマをもって研究を行っている。研究室での実験はもとより、研究に関連した文献調査、定期的な研究進捗状況報告会、国内外での学会発表、論文執筆等、主体的な研究活動が促されている(資料5-21)。

資料5-21：医学系研究科所属の大学院学生による研究業績(6年間合計：2010~2015年度)

	査読付き学術論文数		学会発表	
	総数	(内数) 欧文	総数	(内数) 国際学会
分子細胞生物学	35	35	113	19
機能生物学	55	54	143	65
病因・病理学	69	64	290	78
生体物理医学	109	109	358	101
脳神経医学	170	127	501	131
社会医学	53	46	96	15
内科学	323	314	1034	232
生殖・発達・加齢医学	125	95	191	71
外科学	510	402	1380	279
健康科学・看護学	183	134	383	125
国際保健学	233	231	175	66
公共健康医学	107	94	109	32
疾患生命工学センター	55	55	314	88
医学教育国際研究センター	7	5	18	3
寄付講座・社会連携講座	44	34	170	51
臨床研究部門等	17	14	50	12
	2,095	1,813	5,325	1,368

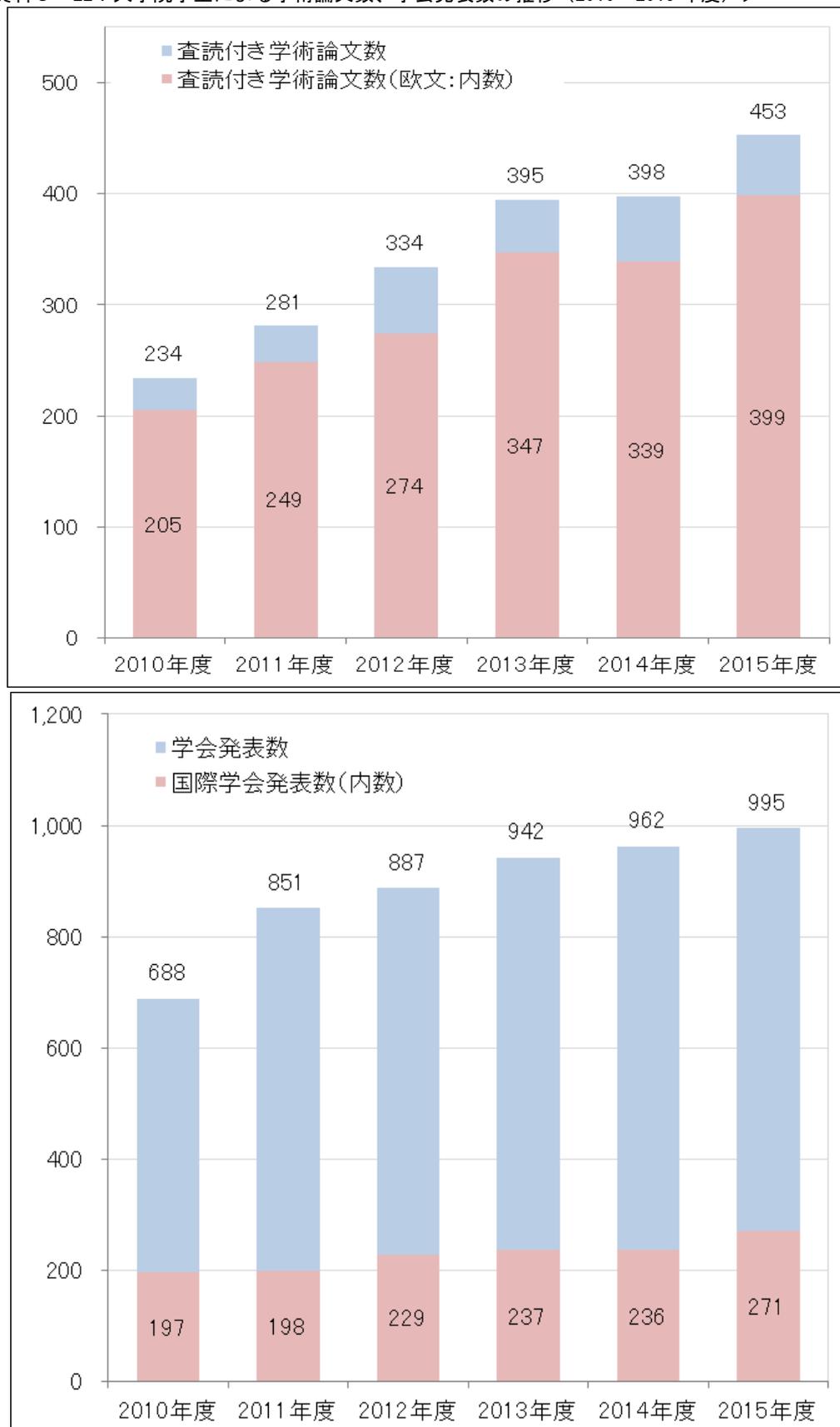
※大学院学生が所属する組織(教室・講座等：指導教員の所属)単位での集計による。

2010~2015年度の6年間に、2,000件を超える論文発表に学生が参画している。そのほとんどが、査読過程のある欧文学術雑誌での発表であり、和文雑誌での発表を遥かに超える数であることは特筆すべきである。

国際学会・会議での発表も約1,400件に上ることから、本研究科の大学院学生の研究活動

が国際的にも認知されていることがうかがえる。年度別に見ても、発表実績は増加傾向にあり、高い水準の研究業績の発表を継続して行っているといえる（資料5-22）。

資料5-22：大学院学生による学術論文数、学会発表数の推移（2010～2015年度）>



東京大学医学系研究科 分析項目Ⅱ

本研究科における主体的な学習を促す取組の成果の表れとして、多数の大学院学生が学会賞等の国内外の著名な賞を受賞しており、教育指導体制が充分整備されており、教育の成果や効果が十分に上がっていると考えられる（資料5-23）。

資料5-23：大学院学生の国内外での主な受賞実績（2010～2015年度）

<2010年度>

学生氏名	課程	受賞/タイトル	授与団体名
須原 宜史	修士	膜学会第32年会学生賞	日本膜学会
谷口 優樹	博士	American Society for Bone and Mineral Research Young Investigator Award	ASBMR
谷口 優樹	博士	日本骨代謝学会優秀演題賞	日本骨代謝学会
深井 厚	博士	Young Investigator Award, HIF2A / NF-κB signal in chondrocytes controls extensive steps of osteoarthritis development in mice and humans.	Osteoarthritis Research Society International
深井 厚	博士	第16回日本軟骨代謝学会受賞	日本軟骨代謝学会
川嶋 智彦	博士	第20回 日本樹状細胞研究会学術奨励賞	日本樹状細胞研究会
栗田 尚佳	博士	第80回日本衛生学会学術総会学術総会会長賞	日本衛生学会
栗田 尚佳	博士	第20回金属の関与する生体反応シンポジウム優秀ポスター賞	日本薬学会物理系薬学支部
佐藤 一仁	博士	第65回 日本消化器外科学会優秀演題賞	日本消化器外科学会
吉見 昭秀	博士	日本血液学会奨励賞	日本血液学会
五ノ井 渉	博士	第38回日本磁気共鳴医学会Presidential Award	日本磁気共鳴医学会
久保田 淳	博士	第123回日本薬理学会関東支部 Young Investigator's Award	日本薬理学会
小池進介	博士	the Poster Award at the 7th International Conference on Early Psychosis.	International Early Psychosis Association
桂 正樹	博士	RSNA 2010(第96回北米放射線学会) Cum Laude受賞	RSNA

<2011年度>

山居 優子	修士	第16回日本難病看護学会学術集会優秀演題賞	日本難病看護学会
松尾 健	博士	第70回日本脳神経外科学会 会長賞	第70回日本脳神経外科学会
保坂 陽子	博士	Travel Award in Australian and New Zealand Bone and Mineral Society 2011	ANZBMS
保坂 陽子	博士	Young Investigator Award in the 33th American Society for Bone and Mineral Research	ASBMR
小池 進介	博士	国際学会発表奨励賞	日本生物学的精神医学会
堀川 弘史	博士	Young Investigator travel bursary XXVth International Symposium on Cerebral Blood Flow, Metabolism and Function and the Xth International Conference on Quantification of Brain Function with PET Barcelona, Spain.	International Society for Cerebral Blood Flow and Metabolism
馬場 美雪	博士	第27回 日本DDS学会優秀発表賞	日本DDS学会
金子 雅子	博士	第13回骨粗鬆症学会学術奨励賞	日本骨粗鬆症学会
森 真弓	博士	第84回 日本生化学会 鈴木絃一メモリアル賞	日本生化学会
森 真弓	博士	第15回 日本生殖内分泌学会学術奨励賞	日本生殖内分泌学会
石井 耕平	博士	若手研究者発表会優秀論文発表賞	日本生体医工学会関東支部
石井 耕平	博士	日本生体医工学会関東支部若手研究者発表会2011優秀論文発表賞	日本生体医工学会関東支部
多田 祐子	博士	第33回心筋生検研究会優秀賞	心筋生検研究会
梅原 敏弘	博士	第26回 日本糖尿病・肥満動物学会若手研究奨励賞	日本糖尿病・肥満動物学会
齋藤 順子	博士	The 1st Prize of the Young Investigator Awards (Oral presentation)	15th World Conference of Tobacco or Health
森川 真大	博士	9th Hereditary Hemorrhagic Telangiectasia (HHT) Scientific Conference Best Oral Presentation (Biology of HHT) by a young investigator	HHT Scientific Conference
伊藤 祥三	博士	2011 OARSI (Osteoarthritis Research Society International) Young Investigator Award	OARSI (Osteoarthritis Research Society International)
伊藤 祥三	博士	2011 ASBMR (American Society for Bone and Mineral Research) Young Investigator Award	ASBMR (American Society for Bone and Mineral Research)
伊藤 祥三	博士	2011 IOF Regionals ANZBMS Young Investigator Award	Australian and New Zealand Bone and Mineral Society
Yu Mikami	博士	Asian Pacific Society of Respiriology Young Investigator Award	Asian Pacific Society of Respiriology
三上 優	博士	第8回東京呼吸リサーチフォーラム審査員特別賞	東京呼吸器リサーチフォーラム
星野 佑香梨	博士	第84回日本生化学会大会 鈴木絃一メモリアル賞	日本生化学会
星野 佑香梨	博士	第84回日本生化学会大会 2011 JB/OUP Poster Prize 1st place	日本生化学会
井口 はるひ	博士	Merit Poster Award of Dysphagia Research Society. Frequency of stage II transport cycles. 20th Annual meeting of Dysphagia Research Society	Dysphagia Research Society
山名 由希子	修士	公益財団法人結核予防会結核研究奨励賞	結核予防会

東京大学医学系研究科 分析項目Ⅱ

<2012 年度>

石田 崇朗	修士	日本薬物動態学会第27年会優秀ポスター賞	日本薬物動態学会
小松谷 啓介	修士	鈴木絃一メモリアル賞	日本生化学会
小松谷 啓介	修士	第2回ポルフィリン-ALA学会年会優秀ポスター賞	ポルフィリン-ALA学会
山田 真理子	修士	膜学会第34年会学生賞「新規イオン応答性 dendritic ポリマーの創製」	日本膜学会
山本 英明	修士	第7回トランスポーター研究会年会学生優秀発表賞	トランスポーター研究会
本郷 寛子	修士	第27回 日本母乳哺育学会 奨励賞(一般演題口演)	日本母乳哺育学会
茶谷 洋行	修士	IPC2012 Young Scientist Poster Award	高分子学会
Khem Narayan Pokhrel	修士	Registration fee waived	CUGH 2013 Global Health Conference
宮脇 哲	博士	第11回 循環医学分野若手研究者助成	先進医療研究振興財団
小島 健太郎	博士	APASL Young Investigator Award	アジア太平洋肝臓学会議
Celine Miyazaki	博士	第54回 日本小児神経学会学術集会優秀口演賞	日本小児神経学会
竹形 みずき	博士	第30回東京母性衛生学会 優秀演題受賞	東京母性衛生学会
内田 智士	博士	第28回日本DDS学会学術集会優秀発表賞	日本DDS学会
杉田 守礼	博士	第30回日本骨代謝学会優秀演題賞	日本骨代謝学会
江里 俊樹	博士	APLAR2012トラベルグラント賞受賞	JCR国際委員会
池亀 天平	博士	第34回日本生物学的精神医学会優秀ポスター賞	日本生物学的精神医学会
宇佐美 憲一	博士	The 10th European Congress on Epileptology Best poster	Epilepsy Congress
河原崎 千晶	博士	第24回 国際高血圧学会 (ISH) Special Travel Grant	国際高血圧学会 (ISH)
村岡 和彦	博士	第24回 国際高血圧学会 (ISH) APSH Young Investigator Awards	国際高血圧学会 (ISH)
衣笠 哲史	博士	第42回日本腎臓学会東部学術大会優秀演題賞	日本腎臓学会
杉田 守礼	博士	第27回日本整形外科学会基礎学術集会 最優秀演題賞	日本整形外科学会
杉田 守礼	博士	34th ASBMR (American Society for Bone and Mineral Research) Young Investigator Award	ASBMR (American Society for Bone and Mineral Research)
相場 俊樹	博士	フォーラム2012 実行委員長受賞	日本薬学会環境・衛生部会
内田 智士	博士	2012年度優秀ポスター発表賞	日本バイオマテリアル学会
原口 美貴子	博士	2012年度Diabetes Masters Conference 研究助成	Diabetes Masters Conference
小林 寛	博士	OARSI Young investigator award	OARSI
安藤 俊太郎	博士	第32回 日本社会精神医学会 優秀発表賞	日本社会精神医学会
Yu Mikami	博士	Best Poster Award	Asian Pacific Society of Respiriology
堀江 真史	博士	第14回IREF young Inversigator Award	Izu Respiratory Forum
住田 真貴	博士	17th International Conference on Advances in Critical Care Nephrology Travel grant	International Conference on Advances in Critical Care Nephrology
住田 真貴	博士	第23回日本急性血液浄化学会Best Presentation Award	日本急性血液浄化学会
Chang Ho Seo	博士	Image Award of the year in "Biomaterial"	Biomaterial誌
中村 元信	博士	アメリカ腎臓学会 (ASN) Top of abstract	米国腎臓学会
千葉 真由美	博士	第133回日本薬学会年会 年会優秀発表賞	日本薬学会

<2013 年度>

中川 慶之	修士	膜学会第35年会学生賞	日本膜学会
穂積 卓朗	修士	化学工学会第45回秋季大会 粒子流体プロセス部会プレゼンテーション賞	化学工学会
呉 昇原	修士	JSAO & IFAO Joint Congress 2013 Young Investigator Award	JSAO/IFAO
川崎 夏美	修士	ポスター賞 The 3rd International Symposium by JSPS Core-to-Core Program "TGF- β Family: Signal Network and Live Imaging"	JSPS Core-to-Core Program "Cooperative International"
平本 翔大	修士	化学工学会第79年会学生賞 銅賞	化学工学会
満岡 友祐	修士	Paper Award (Papers of the Year) Journal of Biomechanical Science and Engineering	日本機械学会
満岡 友祐	修士	Graphics Award (Graphics of the Year) Journal of Biomechanical Science and Engineering	日本機械学会
宮脇 哲	博士	XXVIth International Symposium on Cerebral Blood Flow, Metabolism (BRAIN 2013) Young Investigator Bursary	International Society for Cerebral Blood Flow and Metabolism
宮脇 哲	博士	第14回日本分子脳神経外科学会 学会賞	日本分子脳神経外科学会
小野 秀明	博士	Young Investigator travel bursary at Brain 2013 (36th International Symposium on Cerebral Blood Flow, Metabolism and Function & 6th International Conference on Quantification of Brain Function with PET)	International Society for Cerebral Blood Flow and Metabolism
宇野 真之介	博士	日本化学会第93 春季年会学生講演賞	日本化学会
星野 愛	博士	第31回 日本小児神経学会優秀論文賞「Epidemiology of acute encephalopathy in Japan, with emphasis on the association of viruses and syndromes」	日本小児神経学会

東京大学医学系研究科 分析項目Ⅱ

菅家 康介	博士	2nd Joint Meeting of the International Bone and Mineral Society and the Japanese Society for Bone and Mineral Research, International Bone & Mineral Society Travel Award 2013	International Bone and Mineral Society
山崎 茉莉亜	博士	日本睡眠学会第38回定期学術集会ベストプレゼンテーション賞	日本睡眠学会
進藤 潤一	博士	JSGS Young Investigator of the Year「大腸癌肝転移に対する集学的治療戦略術前化学療法前後の腫瘍性状の変化に基づいた大腸癌肝転移の予後予測」	日本消化器外科学会
橋 香奈	博士	ノバルティスバイオキャンパ 2013 個人優秀賞	ノバルティスファーマ株式会社
大黒 達也	博士	第18回認知神経科学会 優秀演題賞「領域一般的学习に関わる脳磁場反応」	認知神経科学会
金原 直也	博士	2013年度包括型脳科学研究推進支援ネットワーク夏のワークショップ 若手優秀発表賞	包括型脳科学研究推進支援ネットワーク
藤澤 希望	博士	フォーラム2013優秀若手研究者賞	日本薬学会環境・衛生部会
伊藤 悠城	博士	第20回日本排尿機能学会河邊賞	日本排尿機能学会
小林 寛	博士	ASBMR Young investigator award	ASBMR
半谷 匠	博士	日本血液学会学術集会優秀ポスター賞	日本血液学会
Liu, Xiaoxi	博士	2013年度 The Journal of Human Genetics Young Scientist Award	日本人類遺伝学会
瀬理 祐	博士	第41回 日本臨床免疫学会 優秀演題賞	日本臨床免疫学会
橋 香奈	博士	博士課程教育リーディングプログラムフォーラム2013「社会的格差・対立」部門 優秀賞	文部科学省 博士課程教育リーディングプログラム
相場 俊樹	博士	第13回分子予防環境医学研究会若手優秀発表賞	分子予防医学研究会
三國 貴康	博士	第30回井上研究奨励賞	井上科学振興財団
住田 真貴	博士	18th International Conference on Advances in Critical Care Nephrology Travel grant	International Conference on Advances in Critical Care Nephrology
平岡 毅大	博士	第367回関東連合産科婦人科学会学術集会 若手ポスター奨励賞	日本産科婦人科学会
吉里 哲一	博士	第18回欧州血液学会年次総会 Travel Award	日本血液学会
吉里 哲一	博士	第55回米国血液学会年次総会 Abstract Achievement Award	米国血液学会
井口 はるひ	博士	Poster Award of 7th World Congress of the International Society of Physical and Rehabilitation Medicine. Frequency of stage II transport cycles. 7th World Congress of the International Society of Physical and Rehabilitation Medicine	International Society of Physical and Rehabilitation Medicine
佐藤 信彦	博士	第56回日本腎臓学会学術総会優秀演題賞	日本腎臓学会
星野 佑香梨	博士	第86回日本生化学会大会 鈴木紘一メモリアル賞	日本生化学会
高橋 恵生	博士	第86回日本生化学会大会 鈴木紘一メモリアル賞	日本生化学会

<2014 年度>

宇治田 和佳	修士	第21回日本行動神経内分泌研究会優秀発表賞「生育環境がマウス集団内における他者との関係構築に与える影響のHAKONIWAによる解析」	行動神経内分泌研究会
中川 慶之	修士	化学工学会第46回秋季大会 バイオ部会優秀ポスター賞 化学工学会第80年会学生賞 金賞	化学工学会
Begum Mumtaz	修士	Best oral presentation in Nutrition Policy to Practice in Pakistan, Kslamabad, Pakistan.	Kslamabad, Pakistan
張成虎	博士	ASBMR Young Investigator Award 「Identification of Grem1 as a catabolic factor induced by mechanical stress loading in articular chondrocyte.」	ASBMR (American Society for Bone and Mineral Research)
Dinh Nguyen Tran	博士	16th International Congress of Infectious Diseases Sanofi Pasteur Awards for Communicable Disease Epidemiology	International Congress of Infectious Diseases
永淵 泰雄	博士	第58回日本リウマチ学会国際ワークショップ賞	日本リウマチ学会
夏本 文輝	博士	第58回日本リウマチ学会国際ワークショップ賞	日本リウマチ学会
土田 優美	博士	第58回日本リウマチ学会国際ワークショップ賞	日本リウマチ学会
比留間 孝広	博士	第61回日本麻酔科学会最優秀演題賞	日本麻酔科学会
安藤 俊太郎	博士	国際学会発表賞	日本精神神経学会
嶋田 勢二郎	博士	第8回日本てんかん学会関東甲信越地方会若手優秀賞	日本てんかん学会関東甲信越地方会
青木 悠太	博士	2014年度 JNS-SfN Exchange Travel Award	日本神経科学会
青木 悠太	博士	第17回 精神医学奨励賞	日本精神神経学会
青木 藍	博士	国際学会発表賞	日本精神神経学会
中川 大地	博士	第14回日本術中画像情報学会 学会賞 東京	日本術中画像情報学会
ペナー 聖子	博士	第3回日本DOHaD研究会優秀演題賞	日本DOHaD研究会
大黒 達也	博士	第19回認知神経科学会 ポスター賞	認知神経科学会
柳原 歌代子	博士	第30回日本DDS学会学術集会若手優秀発表賞	日本DDS学会
平池 勇雄	博士	第19回アディポサイエンス・シンポジウム 若手優秀研究奨励賞	日本肥満学会
杉山 梨乃	博士	第21回日本排尿機能学会河邊賞	日本排尿機能学会
伊藤 悠城	博士	第21回日本排尿機能学会学会賞(基礎)	日本排尿機能学会

東京大学医学系研究科 分析項目Ⅱ

久保田 晋平	博士	International symposium "Homeodynamics in Clocks, Sleep and Metabolism" - Tokyo Translational Therapeutics Meeting ポスター賞	Tokyo Translational Therapeutics Meeting
北村 堯子	博士	Best Poster Award	The 46th Asia-Pacific Academic Consortium for Public Health
牧野 惇	博士	nanoDDS 12th International Nanomedicine & Drug Delivery Symposium Poster Award	nanoDDS
秋山 佳之	博士	44th Annual Meeting of the International Continence Society (ICS), Best poster (Delegates Choice Award for the Open Discussion posters)	International Continence Society
山崎 翔	博士	日本血液学会学術集会優秀ポスター賞	日本血液学会
高見 浩数	博士	2014年12月第32回日本脳腫瘍学会ポスター賞受賞	日本脳腫瘍学会
仲地 真一郎	博士	第43回日本免疫学会学術集会 Best Presentation Award Winners	日本免疫学会
森田 薫	博士	第43回日本免疫学会学術集会 Best Presentation Award Winners	日本免疫学会
澤田 和可子	博士	若手奨励賞「SNAREタンパク質動態の可視化」	Metabolic Scientific Forum
永田 洋士	博士	第49回 日本成人病(生活習慣病)学会学術集会一般演題会長賞	日本成人病(生活習慣病)学会
堤 新一郎	博士	第20回グリアクラブ賞「Cerebellar stripes refine goal-directed behavior」	グリアクラブ
橋 香奈	博士	EDGE INNOVATION CHALLENGE COMPETITION 2015 GOLD AWARD	文部科学省 EDGEプログラム
宇野 真之介	博士	第5回(平成26年度)日本学術振興会 育志賞	日本学術振興会
岡田 慶太	博士	第28回日本軟骨代謝学会 優秀演題賞	日本骨代謝学会
東島 佳毅	博士	生命動態共同シンポジウム数学協働プログラムポスター賞	文部科学省「生命動態システム科学促進拠点事業」
久保田 晋平	博士	日本薬理学会 第88回年会優秀発表賞	日本薬理学会
伊藤 悠城	博士	第30回欧州泌尿器科学会総会ベストポスター賞	European Association of Urology
吉里 哲一	博士	第56回米国血液学会年次総会 Abstract Achievement Award	米国血液学会
小倉 浩一	博士	奨励賞	日本整形外科学会
櫻井 翼	博士	ポスター賞 Joint International Symposium on TGF-β Family and Cancer: Signal Network in Tumor Microenvironment (Tsukuba, Japan)	JSPS Core-to-Core Program "Cooperative International

<2015年度>

小峰 瞳子	修士	第10回トランスポーター研究会年会優秀発表賞	トランスポーター研究会
大屋 麻衣子	修士	第3回看護理工学会学術集会優秀ポスター賞	看護理工学会
張成虎	博士	OARSI (Osteoarthritis Research Society International) Young Investigator Award.	OARSI (Osteoarthritis Research Society International)
高橋 悠	博士	第28回 日本消化器病学会奨励賞	日本消化器病学会
仲地 真一郎	博士	第59回日本リウマチ学会国際ワークショップ賞	日本リウマチ学会
森田 薫	博士	第59回日本リウマチ学会国際ワークショップ賞	日本リウマチ学会
大野 久美子	博士	ECTS-IBMS Travel Award 2015	European Calcified tissue Society International Bone & Mineral Society
屋嘉比 聖一	博士	Digestive Disease Week 2015, Poster of Distinction	米国消化器病学会
平池 勇雄	博士	第58回日本糖尿病学会 若手研究奨励賞	日本糖尿病学会
平池 勇雄	博士	第58回日本糖尿病学会 若手研究奨励賞	日本糖尿病学会
星野 愛	博士	第57回 日本小児神経学会学術集会英語抄録奨励賞	日本小児神経学会
平池 勇雄	博士	Short Talk Chosen from Abstracts, Keystone Symposia, Diabetes: New Insights into Molecular Mechanisms and Therapeutic Strategies (15T2)	Keystone Symposia on Molecular and Cellular Biology
阿部 博昭	博士	第62回日本麻酔科学会最優秀演題賞	日本麻酔科学会
平川 陽亮	博士	第58回日本腎臓学会学術総会 優秀賞	日本腎臓学会
井林 賢志	博士	第9回日本てんかん学会関東甲信越地方会 若手優秀演題賞	日本てんかん学会関東甲信越地方会
宮田 大資	博士	第10回トランスポーター研究会年会優秀発表賞	トランスポーター研究会
宇野 真之介	博士	第29回(2015年度)独創性を拓く 先端技術大賞 フジテレビジョン賞	フジサンケイ ビジネスアイ
唐崎 隆弘	博士	第19回日本がん免疫学会総会 (ICCIM2015) 日本がん免疫学会若手奨励賞受賞	日本がん免疫学会総会
井上 真以亜	博士	第36回日本炎症・再生医学会 優秀演題賞	日本炎症・再生医学会
河田 学	博士	ANZBMS 2015 Travel Award	Australian and New Zealand Bone and Mineral Society
宮田 明典	博士	手術手技研究会ピデオ賞「ICG蛍光法を用いた系統的肝切除」	手術手技研究会
大黒 達也	博士	第20回認知神経科学会 ポスター最優秀賞	認知神経科学会
柳原 歌代子	博士	第15回夏期セミナー優秀発表賞	遺伝子・デリバリー研究会
宇野 真之介	博士	Reaxys PhD Prize	Elsevier

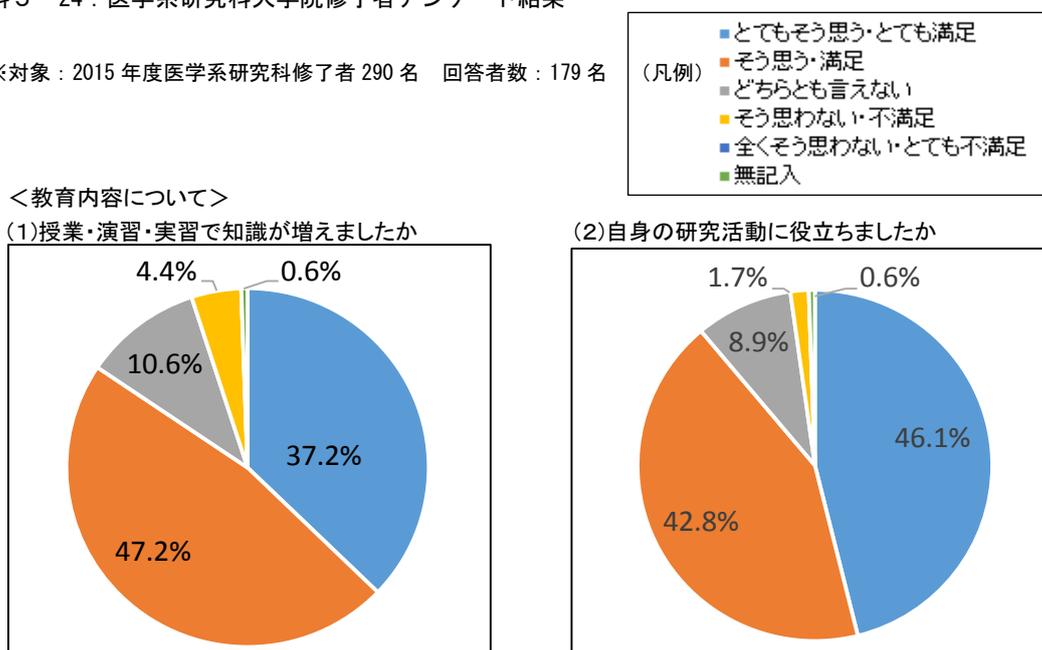
市原 浩司	博士	第22回日本排尿機能学会河邊賞	日本排尿機能学会
屋嘉比 聖一	博士	JDDW2015, Best Presenter Award in International Session	JDDW
Surakameth Mahasirimongkol	博士	The Journal of Human Genetics Young Scientist Award	日本人類遺伝学会
片岡 宗子	博士	XXIII rd WCPG The 2015 Poster Award	WCPG(World Congress of Psychiatric Genetics)2015
白須 拓郎	博士	Japanese College of Angiology Award最優秀賞	日本脈管学会
平池 勇雄	博士	第27回 分子糖尿病学シンポジウム 研究奨励賞	分子糖尿病学研究会
村上 遥	博士	第53回日本人工臓器学会大会萌芽研究ポスター大会長賞	日本人工臓器学会
有吉 洸希	博士	第53回日本人工臓器学会大会萌芽研究ポスター大会長賞	日本人工臓器学会
高土 祐一	博士	日本骨代謝学会IBMS Herbert Fleisch Workshop Travel Award	日本骨代謝学会
岩立 竜	博士	Winner, Student poster competition, Pacificchem 2015	Pacificchem 2015, American Chemical Society
井上 真以亜	博士	第1回骨免疫学会Winter Seminar 優秀演題賞	日本骨免疫学会
塚崎 雅之	博士	第1回骨免疫学会Winter Seminar 優秀演題賞	日本骨免疫学会
原 伸太郎	博士	第44回人工心臓と補助循環懇話会学術集会若手研究者賞(基礎)	人工心臓と補助循環懇話会
池亀 天平	博士	第11回日本統合失調症学会優一般演題奨励賞	日本統合失調症学会
山本 恭子	博士	第16回東京大学生命科学シンポジウム ポスター賞	東京大学
矢澤 亜季	博士	International Travel Award, 40th Annual Meeting Human Biology Association	Human Biology Association
吉里 哲一	博士	日本血液学会奨励賞受賞	日本血液学会
吉里 哲一	博士	日本白血病研究基金 臨床医学特別賞	日本白血病研究基金
吉里 哲一	博士	第57回米国血液学会年次総会 Abstract Achievement Award	米国血液学会
小倉 浩一	博士	奨励賞	日本整形外科学会
内藤 昌志	博士	日本整形外科学会基礎学術集会最優秀演題賞	日本整形外科学会基礎学術集会
小谷野 結衣子	博士	第24回日本創傷・オストミー失禁管理学会学術集会 会長賞	日本創傷・オストミー失禁管理学会

○教育成果に関する学生の評価

本研究科の教育内容・方法に対する学生の評価は非常に高い(資料5-24)。教育内容が充実しており、研究活動の礎となるものであること、また、その方法や各教員の指導力についても学生の期待に十分に答えていると評価できる。研究者としてのキャリアパスに必要な不可欠な経験を経て、研究者として活躍するために必要な能力が培われていると学生が実感していることは、十分な教育成果をあげていることを裏付けるものである。

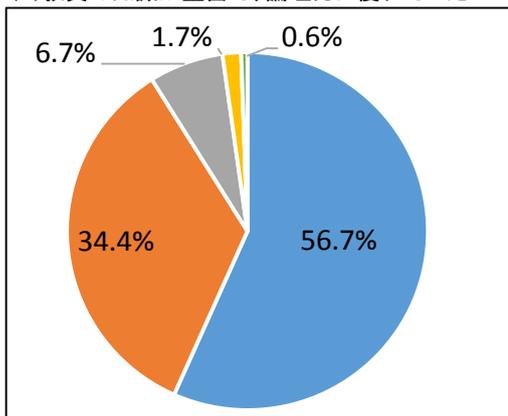
資料5-24：医学系研究科大学院修了者アンケート結果

※対象：2015年度医学系研究科修了者290名 回答者数：179名

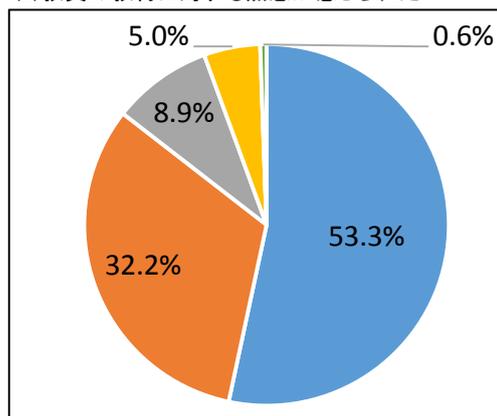


<教育の方法について>

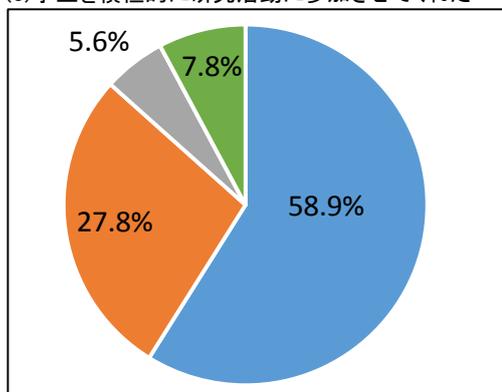
(1)教員の知識が豊富で、論理力に優れていた



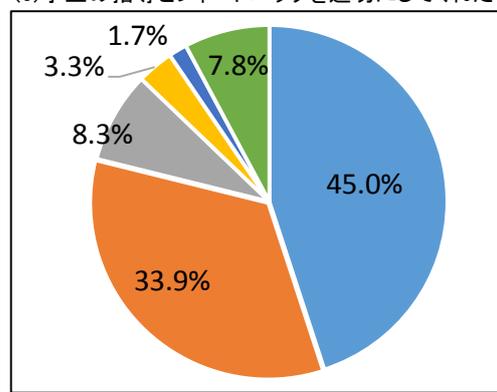
(2)教員の教育に対する熱意が感じられた



(3)学生を積極的に研究活動に参加させてくれた

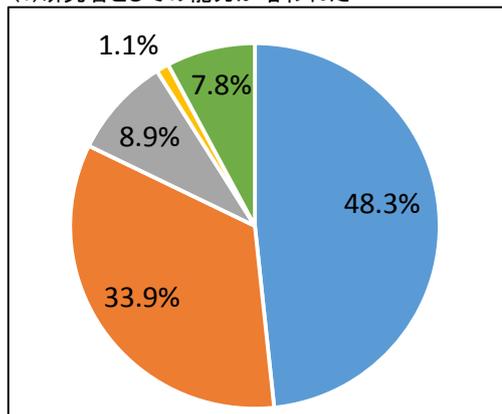


(5)学生の指導とフィードバックを適切にしてくれた

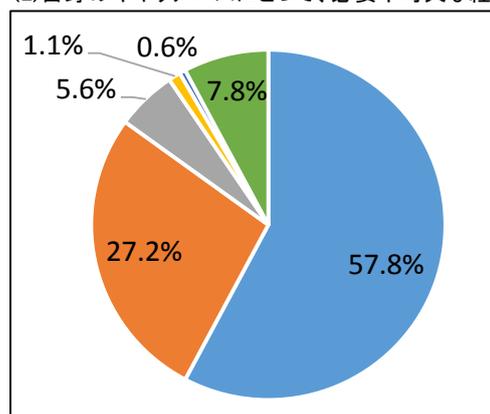


<研究教育内容全般について>

(1)研究者としての能力が培われた



(2)自身のキャリアパスにとって、必要不可欠な経験であった



公共健康医学専攻では、専門職学位課程であるという特殊性、また高度専門職業人の養成という教育目標から、学生に対して、独自に教育効果を測るための修了時アンケート調査を実施している。「今後のキャリアにあたって基礎となる手段・技術・能力」、「公衆衛生学全般に関する幅広い基礎知識」、「新しいことを積極的に学ぶ力」、「仲間と一緒に勉強したり研究したりする協調性」などの項目で高い評価を得ている（資料5-25）。

東京大学医学系研究科 分析項目Ⅱ

資料5-25：公共健康医学専攻修了者アンケート結果（2015年度）

設問	度数					比率					平均値
	向上した (学んだ)	まあ向上 した (学んだ)	あまり向 上しな かった (学ばな かった)	向上しな かった (学ばな かった)	回答数	向上した (学んだ)	まあ向上 した (学んだ)	あまり向 上しな かった (学ばな かった)	向上しな かった (学ばな かった)	回答数	
	4	3	2	1		4	3	2	1		
1 世界の採算端を行く研究を自分で進めることができる専門的研究能力	9	7	2		18	50%	39%	11%	0%	100%	3.39
2 今後の自分のキャリアにあたって基礎となる手段・技術・能力	13	5			18	72%	28%	0%	0%	100%	3.72
3 最先端の研究の進展についてゆける高度な専門的知識	6	11	1		18	33%	61%	6%	0%	100%	3.28
4 公衆衛生学全般に関する幅広い基礎知識	8	9	1		18	44%	50%	6%	0%	100%	3.39
5 実際の場面で役に立つ、実用的な知識やスキル	8	9	1		18	44%	50%	6%	0%	100%	3.39
6 新しいものを産み出す創造力や企画力	5	7	5		17	29%	41%	29%	0%	100%	3.00
7 問題の本質を見極め、問題を解決する能力	7	9	1		17	41%	53%	6%	0%	100%	3.35
8 周辺分野も含む幅広い関連領域への興味	12	5	1		18	67%	28%	6%	0%	100%	3.61
9 新しいことを積極的に学ぶ力	9	7	2		18	50%	39%	11%	0%	100%	3.39
10 仲間と一緒に勉強したり研究したりする協調性	7	9	2		18	39%	50%	11%	0%	100%	3.28
11 プレゼンテーション能力や他人に分かりやすく伝える力	4	10	4		18	22%	56%	22%	0%	100%	3.00
12 自分自身の未来に対するビジョン	7	11			18	39%	61%	0%	0%	100%	3.39

(水準)

期待される水準を上回る。

(判断理由)

修了生の多くが国際的水準の研究者として活躍している。実際、大学院学生の卒業研究・学位論文の水準は高く、非常に多くの賞を受けている。

また、学生に対するアンケートの結果から本研究科の教育に対する満足度が極めて高いことがわかる。これらのことから、学生は水準よりかなり高い学力・資質・能力を獲得しているといえる。したがって、学業の成果は関係者の期待を上回る水準にあるといえる。本研究科の教育内容・方法が、医学系領域の各分野において卓越した学識と高度な独創的研究能力を有する国際的リーダーを養成するという教育目的に沿うものであることは、学生による評価からもうかがえる。

東京大学医学系研究科 分析項目Ⅱ

博士後期課程では、2010年4月以降に入学し、2016年3月までに修了または満期退学したものの96名のうち、33名が研究職に就いている（資料5-27）。

資料5-27：博士後期課程修了者（2010年4月以降入学者）等の就職状況（研究職）

1	東京大学(助教)
2	東京大学(助教)
3	東京大学(助教)
4	東京大学(特任助教)
5	東京大学(特任助教)
6	東京大学(特任助教)
7	東京大学(特任研究員)
8	東京大学(特任研究員)
9	東京大学(特任研究員)
10	京都大学(特定研究員)
11	東京大学(ポスドク)
12	東京大学(学術支援専門職員)
13	東京大学(研究員)
14	大阪大学(助教)
15	金沢大学(学振PD)
16	長崎大学(学振PD)
17	JSPS(Japan Society for Promotion of Science)(Post-doc, SPD)(Researcher)
18	MUHIMBILI UNIVERSITY OF HEALTH AND ALLIED SCIENCES(LECTURER)
19	National Center for Child Health and Development(Researcher)
20	National Institute of Health, Department of Medical Sciences, Ministry of Public Health, Thailand
21	Rajshahi University(Teaching and Research)
22	The University of Nagoya(lecturer)
23	The University of Tokyo(Academic Researcher)
24	The University of Tokyo(Postdoctoral)
25	三重県立看護大学(准教授)
26	埼玉医科大学(ポスドクター)
27	埼玉県立大学(講師)
28	大分県立看護科学大学(看護研究交流センター助教)
29	東邦大学(助教)
30	理化学研究所(研究員)
31	和歌山県立医科大学(助教)
32	国立感染症研究所(任期付研究員)
33	武田薬品工業株式会社(研究職)

※学内システムでの調査による

医学博士程では、2010年4月以降に入学し、2016年3月までに修了または満期退学したものの502名のうち、70%を超える364名が研究職（臨床研究医を含む）に就いている。主要なところでは、本学をはじめとする国公立大学の教員等が123名、日本学術振興会特別研究員が25名、国立研究所の研究職が12名、欧米の大学・研究機関での研究員等が9名となっており、その他は、関連病院の研究医あるいは関係する診療科の助教となって臨床ならびに研究を行っており、本学での教育研究成果をキャリアパスに生かし、引き続き研究者としての道に進むものが多い。

修士課程（医科学専攻、健康科学・看護専攻、国際保健学専攻）修了者は、毎年その多くが本研究科の博士（後期）課程に進学しており、将来の医学研究を担う人材養成に答えている。（資料5-28）

資料5-28：修士課程修了者の本研究科博士（後期）課程への進学状況

修士課程修了年度	2011年度	2012年度	2013年度	2014年度	2015年度
修了者数	81	66	54	53	66
博士（後期）課程進学年度	2012年度	2013年度	2014年度	2015年度	2016年度
進学者数	36	39	26	25	30
博士後期課程					
健康科学・看護学専攻	7	12	9	10	15
国際保健学専攻	6	10	3	6	5
医学博士課程					
分子細胞生物学専攻	5	0	3	1	1
機能生物学専攻	3	3	1	2	2
病因・病理学専攻	5	7	3	3	2
生体物理医学専攻	2	2	1	1	3
脳神経医学専攻	5	4	2	0	2
社会医学専攻	1	1	2	1	0
内科学専攻	2	0	2	1	0
生殖・発達・加齢学専攻	0	0	0	0	0
外科学専攻	0	0	0	0	0

公共健康医学専攻では2007年から2014年度までに修了した215名（1年コースの学生78名、2年コースの学生137名）のうち、医療機関に29%、行政・独法・国連機関に10%、NGO・シンクタンク・企業に16%、大学・研究所（教員・研究者として）14%、さらに31%が社会医学・健康科学・看護学専攻等の大学院（博士課程）に進学している。

2015年度には就職先アンケートを実施し、修了生の就職先上司11名が能力・技術・資質の修得率を評価し、「論理的なコミュニケーション能力」、「数値データの解釈・分析能力」、「情報の検索・選択・意思決定への応用能力」については90%以上、「健康・保健・医療・公衆衛生の国内動向に対する視野・関心」、「人の健康と社会との関わりに対する関心」、「公共の福祉・福利に対する貢献的姿勢」については80%以上が修得していると回答（資料5-29）。

資料5-29：公共健康医学専攻修了者の就職先アンケート（2015年結果）

	就職先アンケート(n=11)			
	必要度 %(A)	修得度 %(B)	ギャップ (A-B)	ギャップ 順位
論理的なコミュニケーション能力	100	90.9	9.1	14
論文・企画書・報告書の論理的執筆能力	100	72.7	27.3	6
プレゼンテーション能力	81.9	54.6	27.3	4.5
異なる分野の職種・研究者とのコミュニケーション能力	90.9	45.5	45.4	1
英語・ほか外国語によるコミュニケーション能力	81.9	63.7	18.2	9
数値データの解釈・分析能力	90.9	90.9	0	18
情報の検索・選択・意思決定への応用能力	100	90.9	9.1	14
課題解決に向けた行動力	100	72.8	27.2	7
多様性に対する寛容性・理解力	100	63.7	36.3	2.5
多面的に問題を捉える視点の広さ	100	63.7	36.3	2.5
リーダーシップ能力	81.9	54.6	27.3	4.5
健康・保健・医療・公衆衛生の世界的動向に対する視野・関心	90.9	72.8	18.1	10
健康・保健・医療・公衆衛生の国内動向に対する視野・関心	90.9	81.9	9	16.5
人の健康と社会との関わりに対する関心	91	81.9	9.1	14
公共の福祉・福利に対する貢献的姿勢	90.9	81.9	9	16.5
専門的知識(疫学・統計学)	81.9	72.7	9.2	11.5
専門的知識(行動科学・精神保健・健康増進・公衆衛生倫理)	63.7	72.7	-9.2	19
専門的知識(医療保健政策・医療情報学)	63.7	54.5	9.2	11.5
専門的知識(環境医学・医療安全学)	72.8	54.5	18.3	8

(水準)

期待される水準を上回る。

(判断理由)

博士（後期）課程修了者は、基礎医学者あるいは臨床医学者としての実力を備え、優れた研究成果を発信し、各専門分野において指導的立場に進む者が多数輩出できることが期待される。修士課程修了者の多くが本研究科博士（後期）課程に進学しており、将来の医学研究を担う人材養成に貢献しており、専門職学位課程修了者についても、医療機関、行政・独立行政法人・国連機関、NGO・シンクタンク・企業など、当初想定されていた分野に継続して進むとともに、教員・研究者として大学・研究所に勤務したり、大学院（博士課程）に進学したりするものも3～4割を示すなど、公衆衛生の教育研究の将来を担う高度専門職業人としても活躍が期待できる。

Ⅲ 「質の向上度」の分析

(1) 分析項目Ⅰ 教育活動の状況

将来の研究者に求められる倫理観、公正性、生命倫理等に係る教育の重要性に鑑み、新しく研究を始める研究者が留意すべきことを中心にまとめた医学系研究科・研究ガイドライン（実験系・調査系）を2010年度に策定、2014年に改訂を行い、これを大学院入学時ガイダンスでも使用するなど、研究倫理支援体制の拡充がなされた。

2015年度には、研究成果発表に用いたデータや実験ノート等の研究資料、試薬等の研究試料、実験装置の情報等を保存・保管に関わる基本的責務を明確にした研究データ保存のガイドライン（生命系・社会医学系）を策定し、研究成果の再現性や反証可能性の確保という科学的方法における要請のみならず、研究者・学生自身を守るための教育に活用している。

研究倫理・規範を遵守するための教育を従来以上に充実させており、教育活動の質を大きく向上させているといえる。

海外の多くの学術機関と国際交流協定・覚書締結しており（前掲資料5-8 ; P. 5-7）、海外の学術機関と交流がもたらす、国際的な教育機会をこれまで以上に多く提供していることも、教育活動の質向上に大きく貢献している。

(2) 分析項目Ⅱ 教育成果の状況

2010～2015年度の6年間に、2,000件を超える論文発表に学生が参画しており、そのほとんどが、査読過程のある欧文学術雑誌での発表あること、また、国際学会・会議での発表も約1,400件に上り、これら実績は、第一期中期目標期間との比較はもとより、本中期目標期間中も年々増加傾向にある（前掲資料5-21, 22 ; P. 5-19, 20）。主体的な研究活動を促がす教育成果により、本研究科の学生が高い水準で、研究業績の発表を継続して行っていることから、教育成果の質の向上が見て取れる。